

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	特定非営利活動法人ふるさと福井サポートセンター	福井県 美浜町	アレックス・カー	東洋文化研究者	古民家空き家からみる美しさ日本の姿	平成27年4月4日
	講演内容			研修成果		
アレックス・カー氏の自己紹介から始まり、日本の文化継承についての問題点、外国人の目線からの日本文化、特に景観についての危惧を警鐘として講演会でお話をいただきました。 アレックス氏は、日本に関係を持ち始めてからすでに50年が経過しており、日本人でもあり、外国人でもあるアレックス氏の当たり前の違いを、明確にたくさん事例をあげて説明されました。 徳島県の祖谷という集落での古民家再生のお話からでは、地元の方も周りの方も交通が不便で車では到着できないほどのところで、観光など絶対に効果が上がらないという視点で見えていましたが、その何もないということこそが本当の価値があるのだという持論をお話いただきました。 いま社会的に問題になっている地方創生の解決方法として祖谷の古民家の話から観光立国としての古民家のあり方、再生の方法もお話いただきました。				参加者数:28名 講演会と懇親会の2部構成で行いました。アレックス氏の講演会では通常数千人規模の講演会が多い為、今回私たちが企画した講演会では少人数で講師と意思疎通が取れるような内容を重視しました。 講演内容では、観光立国としての日本が、本当に観光で商売が成り立つのか?、グローバルに外貨を獲得できるような仕組みが、地域をそして古民家で実現できるのか?、という問いかけに非常に明確に具体的にお答えいただきました。 「何も無いことが、一番の価値である」という視点は、聴講者にもかなり心に残ったようで、何かと飾らないとは注目してもらえないという既存の考え方と180度違う意見が福井の魅力を見出すきっかけになるという意見もいただきました。 懇親会では、アレックス氏との密なお話を各自していただき、今後聴講者の地区への訪問や古民家改築のご相談も多数されており、とても有意義な時間を過ごすことができました。		
2	下野市自然に親しむ会	栃木県 下野市	杉田 昭栄	宇都宮大学農学部 教授	カラスの行動、おもしろアラカルト	平成27年4月19日
	講演内容			研修成果		
カラスの餌場は、一般に考えられるゴミ捨て場よりも、限られた畜産農家に飛来し、農家の一日のスケジュールを把握しているかのように、早朝、昼食時をピークに畜舎への侵入を繰り返していた。また、ねぐらは、夏場は決まっていたが、冬場は移動していた。脳は、ニワトリやハトに比べはるかに大きく、脳が発達していた。脳を構成する神経細胞数も、カラスが最も多かった。カラスは男女の見極めをすることが分かった。また、カラスが紙風船の色とドッグフードの教を組合わせて判断できた。カラスは最低で12ヶ月は記憶を保っていた。鳴き声には、最低約41種類はあり、鳴き声でコミュニケーションが成立していることが分かった。				参加者数:60名 カラスは、古代より縁起の良い動物として、我が国(ヤタガラス)のみならず西洋(ロンドン塔の「守りガラス」など)でも扱われている。一方で、縁起の悪い印象も少なからずある。このような、言わば先入観といったものを、カラスを科学することににより得られたカラスの持つ素晴らしい能力と賢さを知ることにより、カラスにかぎらず動物を理解し上手に向き合う法を知ることができた。さらに、本会で実施している、野鳥のみならず、植物、水生動物、昆虫、その他の野生動物の生息調査やその保護活動、ならびに市民に対する啓発活動を行う上での大きな示唆を与えていただいた講演であった。本会の今後の行動原理として、胆に銘じたい。		
3	小谷城址保勝会	滋賀県 長浜市	屋敷 陽太郎	NHKドラマ制作局ドラマ番組部 チーフ・プロデューサー	大阪の陣400年記念事業 2016年NHK大河ドラマ「真田丸」放送に向けて「真田幸村と淀殿が夢見た世界」	平成27年4月19日
	講演内容			研修成果		
2016年に放送が決定したNHK大河ドラマ「真田丸」について制作統括の屋敷陽太郎氏に、「現在言える範囲でのドラマの見どころ」「長浜とゆかりのある人物の活躍があるのか」などを長浜城歴史博物館館長の太田浩司氏と対談していただきました。屋敷氏には2011年放送の『江〜姫たちの戦国〜』からドラマ制作の近況、真田幸村を選んだ理由、『真田丸』というタイトルに込められた意味、脚本家・主演の決め手、ドラマ制作の裏側・苦労話などをお聞きした他、皆さんが最も気になるであろうドラマの最新情報についても太田氏が鋭く切り込みました。また滋賀・長浜に対する印象、思いについてもうかがいました。				参加者数:224名 屋敷氏にお話しした前にも太田館長に「淀殿・片桐且元・大坂の陣」というタイトルでミニ講演をしていただきましたので、真田幸村と大坂の陣について大まかな流れを頭に入れた後で、ドラマの見どころ、登場人物とキャスティングに関するお話等がよくわかりました。今回のドラマに深く関わってくるであろう淀殿、片桐且元、石田三成等、長浜にゆかりのある人物がたくさんいますので、彼らの活躍を期待していますという熱い市民の思いを屋敷氏に伝えられたのではないかと思います。鋭く切り込む場面あり、笑いあり、そして熱い思いありと、観客と一体となった楽しい雰囲気でも、一同ドラマについて新情報、本放送への期待が高まりました。		
4	青嵐荘エコ・リサイクル委員会	茨城県 古河市	雄谷 良成	社会福祉法人湧子園 理事長	第3回社会福祉法人から発信する地域づくり講演会	平成27年6月13日
	講演内容			研修成果		
講演「三草二木の理念を形に」 湧子園の始まりからこれまでの歴史や活動を通してこれからの社会福祉法人の役割を問う講演であった。 青嵐荘エコ・リサイクル委員会活動報告委員会青嵐荘エコ・リサイクル委員会の活動について地域と密着し、実施してきた活動を報告した。				参加者数:61名 実施後のアンケートにおいて、回答いただいた54名のうち、約65%の方に「良い」との評価をいただく。 講演では、「とても感動しました」、「多様性をどう活かしていくべきなのか参考になりました」、「人は人によって気づきをいただき、生きていくのだ(福祉にたずさわる人間として大切な事を気づかされた)」などのご意見をいただく。地域福祉のあり方について考えられる、素晴らしい感動的な講演となった。 エコ・リサイクル委員会活動報告では、当法人の地域づくりの取り組みが「地域貢献」、「地域との協働実践へ発展」、「利用者中心の活動」であることや「地域の中核になっている」ことなどを感じていただけた。 今回の講演・活動報告が、少なからず参加された方々の地域づくりに対する意識の向上につながったのではないかと考える。		
5	ボランティア団体 茨城遊びのサポーター	茨城県 ひたちなか市	矢代 貴司	塾講師・子どもの遊びの指導者	第25回こどもの遊び実践研修会	平成27年6月21日
	講演内容			研修成果		
当団体では、実践研修が出来ない為「ボデイバーカッション」の指導を賜りました。 ・ボデイバーカッション実践研修内訳 ①手回しリズム:指導者の手の動きに従い、周りは拍手したり停止する動作 ②まねこリズム:タンタンタンウンのリズムで、4拍手目に休符する動作 ③手拍子リズム:タンタンタンウンのリズムで、レベルアップ ④皆さんリズム:グループで、順番に真似てやる				参加者数:42名 第21回に引き続き当団体では、無い新たな遊びのポケット育成を図ることが出来ました。特に、地域市町村の放課後児童クラブ指導員にとり、新たな遊びの展開が出来ると喜びを表明してくれました。これも達へ、新たな遊びの幅が広がり地域活性化につながるかと確信します。 添付「第25回こどもの遊び実践研修会アンケート報告(抜粋)」を参照願います。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	あずさの会 長野支部	長野県 塩尻市	冠地 情	イトコサガシ 代表	コミュニティ体験ワークショップ	①平成27年5月9日 ②平成27年5月10日
	講演内容				研修成果	
生きづらさを生きやすさに変えるための、コミュニケーション向上ワークショップ。反省や楽しみだけのワークショップではなく、自分らしく自分の思いを表現するための体験ワークショップです。					参加者数:15名 自分の内面から、自分らしさがどんどん引き出されていく体験に加えて、自分には、これだけのコミュニケーションツールがねわっていたのだと気づくことができました。同時に、うまくやろう、失敗しないようにしようではなく、自分は自分でよいのだという気づきを与えられました。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	地球のステージ 実行委員会INちとせ	北海道 千歳市	桑山 紀彦	精神科医、NPO法人地球のステージ代表	インド、カンボジアなどの開発途上国の子どもの現状と東日本大震災の復興に関する講演を通じ、国際理解を深め、世界と人、地域と人、人との「つながり」の大切さや、社会貢献について考える	平成27年6月21日
	講演内容				研修成果	
タイ、カンボジア、東ティモール、パレスチナ等で医療支援活動続ける桑山紀彦医師の講話。世界の紛争、災害、貧困下で生きる人々の現状と東日本大震災の復興支援について、音楽と映像、語りを通して伝えた。イラン南東部大地震の救援に出かけた桑山医師。避難民キャンプでサッカー大会を始め、そこで出逢った家と父を失った少年について伝えた。東ティモールでは医療活動に取り組む米国人医師や家族を戦乱で殺され、診療所に一人でやってきた少年との出会いについて伝え、その他、紛争で海を見られないパレスチナの子どもたちを海に連れて行った逸話などを紹介。「僕たちにとって自由や安心はそこにあるもの。でも彼らには手に入らない」と話した。また東日本大震災で被災した子どもたちの心のケアの一環として映画を制作し、その撮影の様子を紹介。最後に10代の頃に臨んだ自転車での日本一周旅行での多くの出会いを振り返った。					参加者数:250名 ・当日は小学生から80代まで、幅広い年齢層の来場者に恵まれた。家族連れでの来場も多く、公演中は涙を流す人の姿も見られた。公演の内容は世界の人々と、その人が置かれた現状を知るといふもの。東ティモール、イラン、パレスチナ、東日本大震災の被災地など、災害や戦乱の地について学ぶ機会を提供した。本公演を通して地方都市に住みながらも国際支援に関わることの意義を知る機会を提供できた。 ・アンケートを実施した結果、120人から回答を得た。感想では「とても満足」「満足」が93%を占め、94%の回答者が次回も「参加したい」と答えた。この結果から、国際貢献活動の意義と重要性の理解について、広範な世代への浸透を促進できたと思われる。自由記述のコメント欄には「自分の知らない世界を知ることができました」「人々の生きる姿に感動しました」など、多数のコメントが寄せられた。これは本公演が世界に目を向ける契機として、一定数の市民に受け止められた証左であろう。 ・講師の桑山氏は宮城県名取市を拠点に活動し、同市に震災資料館「閉上の記憶」を設立し、運営に携わっている。実行委では写真の展示会をプレイベントとして開催し、公演当日の会場にも写真を飾った。公演当日は閉上の記憶の運営資金に充てる募金も呼びかけ、2万1000円の浄財が寄せられた。地域から世界を考える行動する桑山氏の活動に触れることで、地域社会に住みながらも世界を考える意味を学ぶきっかけになった証しである。また世界のそれぞれの地域で逞しく暮らす人々の姿に、人間関係の希薄化が懸念される現代日本にあって、人と人との結びつきや絆の大切さを再認識した人も多かった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
8	福生青年会議所	東京都 福生市	藤屋 伸二	藤屋マネジメント研究所 代表 執筆家	ドラッカーから学ぶリーダー・経営者の思考法	平成27年6月25日
	講演内容				研修成果	
経営学者であるP.ドラッカー氏の経営論を踏まえ、地域経済におけるリーダー・経営者層に対し、マネジメントやリーダーシップについて、講演会を行い、また都度演習を交え考えさせるものであった。事業の強み、自社の魅力、差別化、中小企業が差別化できる市場ということについて触れ、自社の強みや魅力を、市場において十分に発揮でき、強みを利益に変えるために、リーダー・経営者がどのような考え方もつべきで、どのようなマネジメントを行うべきか講演され、それらを利益に変えるまでのマネジメント論を、聴講者自身のセルフマネジメント能力も高める必要性を問いなおされるものだった。演習では他者のケースも知ることができ経営理論やリーダーシップ論の実情を自らと異なる角度で見ることができた。					参加者数:33名 経営者や従業者、異業種の方々や、今後就職をする若者まで、様々な聴講者がいたが、一緒に、自身の仕事に対し、その強みや差別化をはかるための、思考の変化を促された。講演と合わせ演習があり、皆が自身の仕事に向き合い、また講師との対話を通じ、セルフマネジメント力を固めるきっかけが得られた。他社と違う魅力を3つ各々に考えさせ、それを言える化、見える化、魅せる化することで、差別化させていくため、発表や応答が行われた。一方的な経済理論の話ではなく、それぞれの仕事や環境に合わせた演習と応答によって、皆が考えさせられ柔軟で強い発想力とリーダーシップの持ち方を学ぶことができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
9	children会	三重県 津市	①館岡 康雄 ②井原 くみ子 ③館岡 洋子 ④村木 則予	①静岡大学大学院教授 ②ICFプロフェッショナル認定コーチ ③早稲田大学大学院教授 ④中小企業診断士/ITコーディネータ/キャリアカウンセラー	対話(サロン)による協働の地域づくりフォーラム2015～SHIENのところが育むオールピープルサロンIN三重～	平成27年5月6日
					講演内容	研修成果
<p>日本が抱える少子化・子育て・社会的擁護・福祉・地域連携不足問題など数多くあります。これら全ての問題は、繋がっており各部署単位では解決されていきません。また、行政主導では不可能の時代に突入しました。ぶら下がっている県民ではなく、自立する県民にしていくための気づきを生むフォーラムと致します。行政が県民にぶら下がられるように、県民が立ち上がりなくては何も始まりません。そこで有効なのが『世界を変えるSHIEN学』を取り入れた、地域住民全員参加型の対話です。それが『サロン』です。静岡県牧之原市では実際に成果を治めてきています。牧之原市の西原市長・市の職員・SHIENアカデミーのメンバーの応援を得て気づきを生みみたいと思います。県政に役立ち県から立ち上がりれば、各市町に連鎖反応が生まれると思います。このフォーラムに参加した方が、各部署・各市町で立ち上がり改革を起すことと思えます。</p> <p>① 対話(サロン)が各地で立ち上がり、協働の地域づくりへ動き出す ② 内面からの「気づき」が生まれ「行動」する(人を思う心の育成) ③ マネジメント力の向上とコミュニケーション力の向上 ④ 県民が立ち上がり自立し、一步を踏み出す勇気を与えることが出来る。参加者が各市町で行動を起し連鎖反応が生まれ、改革に歩みだす。</p>					<p>参加者数:114名 ★講演会:支援関係の公平化、平等化、思いやり、対等、相互関係の元立することが大切と教えて頂きました。ありがとう。や、社会が変化している中、人の繋がりが社会のあるべき姿を変化させ、対応しなくてはならない必要性が身に染みて感じました。日本人としての元来の精神性がSHIEN学の根底にあるのだと思いました。松井さんの活動よりSHIEN学のことはい聞いたことがありましたが、子育て支援に関わる事かな?との薄い認識しか持っていませんでした。今回、館岡先生の講演を聞いて自分の今後の社会の関わりを再認識できました。SHIENはしてもらおうとあげるの交換、してもらおうの難しさ等。勉強になりました。大変勉強になった。人に支援されるように取組をどうすれば良いか考えていく必要がある。等々。 ★パネルディスカッション:皆さまの思いが聞くことができ大変参考になりました。多様性が生き残るといことば、それから「場をつくる」ことの重要性を実感しました。官・民それぞれの意見が聞き取れて良かったです。対等な議論、相互尊重でサロンは成長すると思えます。等々。 ★サロン:同じグループで色々なお話しが出来て、共有も出来るとも良い機会になりました。ファシリテーターの西原市長のすばらしいとりきりにグループ全体が動かしていただきました。改めて認識することが多かった。身近なところから意見を出してみんなで考えていくので話しやすかった。当日にチームが決まるというのはなかなかおもしろいですね。良かった。十人十色の意見があり参考になりました。内容的にもっと詳しく話し合いたかった。大きなテーマなので是非今後も続けて頂きたいと思いました。等々。 沢山のご意見・感想をいただきました。目標でありました気づきを生むことが出来たと思います。実際に伊賀市の方からどのようにしたいのかの説明に来て欲しいと要望があり行ってきました。各市でも動き出しそうです。また、参加された方々は、医師・大学教授・短大教授・県職員・県議員・市議会議員・市職員・他市職員・自営業・NPO法人・会社員・主婦・大学生・子どもなど様々な方でした。意識のある人達の集まりでしたので、これからは楽しみです。</p>	
10	特定非営利活動法人もりずむ	三重県 津市	①大道 淳二 ②向井 恭助 ③-1安川 桃 ③-2安川 アンナ	①槍カンナ専門大工職人「京弥橋」代表 ②伝統技術大工職人 おおしま家大工店 番頭大工 ③-1、③-2木のオカリナ樹音・制作、演奏家NPO法人やすらぎの音楽協会 会員	参加型イベントで。森林、林業、木材の素晴らしさを広める!	①平成27年6月14日 ②平成27年9月26～27日 ③平成27年10月11日
					講演内容	研修成果
<p>①こだわりのマルシェ「美杉むらのわ市場」会場内で「槍カンナ実演・体験会」を開催し、若者を中心に12人が参加。槍カンナで削って現れる表面の縞模様を木材の美しさを浮き立たせることを実感してもらった。②美杉の製材工場内で伝統大工道具ちよな、まさかりなどによる加工技術の実演・体験会「まつろう会ワークショップ」を開催、全国各地の大工、愛好家67人が参加。伝統工具で浮かび上がる木材のウロコ模様の美しさを実感してもらった。③美杉村のわ市場会場内で、木のオカリナワークショップを開催、親子連れ、女性を中心に15人が参加。木材が本来持っている澄んだ優しい音色を体感して心身を癒してもらった。</p>					<p>参加者数:94名 ①および②の伝統工具体験ワークショップを通じて、実演の素晴らしさに感嘆し、かつ自ら体験を楽しみながら、木材の表情の豊かさ、温もり、優しさに理解を深めると同時に、伝統技術を継承することの大切さを理解してもらうことが出来た。③のオカリナ・ワークショップを通じては、楽器をサンドペーパーで磨いて仕上げるという作業で、ツルツルに仕上がっていくことの単純素朴な気持ち良さを楽しみ、プロの生演奏に深い感銘を受け、また自分で吹くことで音楽の楽しさを堪能しながら、音色、香り、手触りなどによって木材の本来持っている「癒し・セラピー効果」を理解してもらうことができた。</p>	
11	特定非営利活動法人楽遊ネットワーク宮城	宮城県 仙台市	①伊達 宗弘 ②澁谷 芳園	①歴史作家・仙台大学客員教授 ②北山五山寺「資福禅寺」住職	「伊達街・せんだいを語る」 ①伊達藩に彩を添えたお姫さま ②仙台三十三観音第三番札所資福禅寺から	平成27年6月25日
					講演内容	研修成果
<p>①伊達氏…伊達家の歴史や文化は、それぞれの時代を精一杯生きた姫君たちを抜きには語れない。伊達家に生を受けあるいは縁があって嫁いできたお姫様は、与えられた自分の使命を誠実に果たそうとした。それが原動力となり伊達家の歴史を重厚なものとし、さらに彩を添えてきたのではないかと。そんなお姫さまの生き方を物語風に分かりやすくたどってみる。 ②澁谷氏…仏像は歴史的や骨董の価値があれば博物館に引越し、美術的価値を持っていれば美術館に移動されます。国宝クラス等の仏像やご神体をその場所での信仰対象としてお祀りし続けている所は存外に少ない。日本においての仏教信仰の中でも観音信仰は特別に驚くものがある。観音さまは慈悲の観音様です。慈悲とは慈と悲からなっており慈は与恵を悲が抜苦を意味する。それが観音様のお仕事のひとつである。</p>					<p>参加者数:42名 講演の目的である2名講師の方々の地元に着した特徴を生かした講話により、伊達家のお姫さまが其々の時代を精一杯生きた歴史上の背景や各社寺に所蔵されている美術品や数百年前に造られた観音像、歴史的な仏教建造物の大切さや観音様のお仕事は等、慈しむ心の重要性など、十分に参加者の皆さんに伝わった講演になりました。更には震災後の心の癒し、地元の歴史の再認識、体力や健康維持の大切さを意識しなくては等、講話後、参加者からの質問もあり質疑応答にも30分以上の時間が費やされ、和やかな良い時間を主催者側、講師の先生方、参加者の皆様と共有できた講演会になったのではと思います。</p>	
12	春を呼ぶ会	三重県 名張市	①筒井 英賢 ②平岡 慎紹	①東大寺塔頭 住職 ②東大寺 僧侶	東大寺二月堂お水取り 松明調進に学ぶ	平成27年6月13日
					講演内容	研修成果
<p>奈良東大寺からお二人の僧侶をお招きし、筒井氏からは、東大寺の歴史と名張との結びつき、不退の行法である二月堂修二会(お水取り)の歴史について、改めて詳しくご講演をいただきました。 また、平岡氏からは、実際に修行者として修二会を行法を経験されたことから、修二会の行法のもつ意味や行法を支えるさまざまな圓玄講社に対する感謝の気持ちなどをお聞きしました。</p>					<p>参加者数:52名 参集いただいた圓玄講社並びに関係団体など、それぞれに関わる部分についてはある程度知り得ているが、改めて東大寺と修二会についてお聞きすることにより、行法全体のことを知ることができ、また、実際に行法を経験された方からのご講演は、その一端を担う圓玄講社並びに関係者にとって、1200年以上続く不退の行法を永末く支えていく決意を再認識させていただいた講演でした。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
13	大瀬古町子供と地球の環を育む会	三重県 四日市	①大塚 良治 ②下村 仁士 ③宗像 基浩	①湘北大学 准教授 地域鉄道再生支援 ②尚綱大学 非常勤講師 交通論 ③四日市の交通と街づくりを考える会 副理事長	四日市市の交通と郷土文化のまちづくり	平成27年6月6日
	講演内容			研修成果		
四日市あすなろう鉄道 内部・八王子線として生まれ変わった特殊狭軌線(ナローゲージ)の存続活動で鉄道がもたらす地域活性化への活動報告を行った。合わせて、伝統文化の継承活動で地域に残すべきものをコラボして地域まちおこしとして、有識者や自治会、運行会社、市民団体などの意見を聞き鉄道も伝統文化も地域住民が支えていく事の大切さを学び次世代のリーダーとして、子どもが参加する事で地域づくりにつなげる。			参加者数:100名 2015年4月に近鉄内部・八王子線から四日市あすなろう鉄道 内部・八王子線として生まれ変わった特殊狭軌線(ナローゲージ)の存続活動に携わった有識者による構想説明とNPO法人 四日市の交通と街づくりを考える会による鉄道がもたらす地域活性化への活動報告を行った。 日永地区の伝統文化『つんつくおどり』の継承活動を行っている共通課題である地域に残すべきもの次世代の若者たち継承する事の重要性を相互に理解し協力し合う事が決まった。 この日に泊駅の雑木林の清掃活動を提案し翌日20名ほどの市民ボランティアによって草刈が実施されるなど協働への成果となった。			
14	特定非営利活動法人会津スポーツクラブ	和歌山県 田辺市	長野 信一	日本体操研究所 所長	ラジオ体操による運動習慣づくりと地域住民の交流、地域コミュニティづくり	平成27年7月25日
	講演内容			研修成果		
今、我が国にとって高齢化社会に伴う医療費の増大は大きな課題であり、その対応策の一つである健康対策として、日本人にとって馴染みの深い「ラジオ体操(第1・2、みんなの体操)」の効用について、また全国各地の実践例などについて講演をいただいた。その後、ラジオ体操を効果的にするための実技指導を、ウォームアップ、リズム体操等も交えながら、子どもからお年寄りまで、丁寧にわかりやすくご指導をいただいた。			参加者数:150名 夏の暑い日の小学校体育館の中での講演・研修ではあったが、参加者全員気持ちのよい汗をかくことができた。また、参加者の多くが「ラジオ体操」の効用について再認識をすると共に、「ラジオ体操」を通して地域のコミュニティ再生、親子の交流の場を作ろうとの機運が盛り上がり、翌日より田辺市では初の地域住民による自主的な「ラジオ体操」が実施されており、連日約100名の参加者がある。			
15	大杉年輪塾	愛媛県 大洲市	①古佐小 基史 ②笹島 明夫	①ハービスト 看護師、保健師 ②ミュージシャン、作曲家	平成27年大杉年輪塾夜学	平成27年6月13日
	講演内容			研修成果		
今回の健康に関しての講話は音楽全般に関して、ハーブに関して、音に対するところ、からだの反応、音楽の社会的存在意義など、様々な視点からできるだけ理解できるように丁寧にそしてわかりやすく講話をして頂き、心安らぐ音楽の生演奏を織り込みながら沢山聞かせていただきました。講話を通して「こころ・からだの健康と音楽」について楽しみながら音楽を体感して頂き研修することが出来ました。特に日頃なかなか接することがないハーブの音色とプロのギターリストの演奏は大変有意義な時間でした。			参加者数:180名 当初の予想では地区内60%地区外40%と思っていましたが、当日は福岡、広島、香川、始め松山、西条、宇和島等、地区外の方の参加が約60%位になりました。今後の新しい活動につながればと願っています。また参加者も昨年の2.2倍の約180名になりました。参加していただきました皆さんには大変好評でしたが、これに満足せずさらに地道な活動をしていかなければと思っています。特に後援いただきました大洲市教育委員会には教育部長直々に駐車場の自動車の誘導整理等していただきました。その他多くの地区内外の方々の協力、援助で平成27年夜学を盛会に開催できました。この地道な活動をこれからも継続することが大切であると会員間で意識の共有ができたことも大きな成果だと思います。			
16	年輪塾	愛媛県 伊予市	①中江 彰 ②辻 喜千治	①元近江聖人中江藤樹記念館 館長 ②大洲藤樹会 会長	年輪塾公開セミナー「藤樹先生に学ぶ 日本人の心」	平成27年10月3日
	講演内容			研修成果		
日本で唯一、聖人といわれる中江藤樹の素顔と教えについて、大洲と滋賀での様子を比較しながら、代表的な著書「翁問答」「鏡草」をもとに、人として本来もっている明德(あるべき姿)の大切さを学んだ。鼎談では、武士達に学問を教える一方で、村人など一般の人達にも、中国の故事を例にとり人のあるべき姿をわかりやすく教育したことについて、これが中江藤樹の教育の両輪であったことを学んだ。教育とは最も身近な家族や地域の中でこそ、行われるべきものであることを確認し、「知行合一」「五事を正す」など、中江藤樹の言葉を身近なことと関連付けながら意見交換した。			参加者数:61名 公開セミナーの開催により、中江藤樹という先人の足跡に触れ、私たちが見失っている“日本人としての心のあり方”について、参加者それぞれに問うことができました。この学びを、どう実践し、どう伝えていくのか、今後、地域の中で、あらたな課題に取り組むこととなります。			
17	岩手おなご塾おらんど	岩手県 岩手町	①②山崎 洋子	小説家・脚本家	戦後70年「戦争、その知られざる悲劇～女優・園井恵子を悔んで～」	①平成27年8月20日 ②平成27年8月21日
	講演内容			研修成果		
【8月20日園井恵子に関する学習と意見交換交流会】講師の山崎洋子氏とともに岩手町川口の園井恵子像を見学し、園井恵子について学習した。講師・山崎洋子氏は園井恵子は広島で被爆し、新たに平和の使者として生き返ったのではないかという新しい発想での提言をいただいた。 【8月21日園井恵子への参加と講演会の開催】園井恵子忌の偲ぶ会では、講師・山崎洋子氏の話を交え参加者が一人ずつ園井恵子への想い、戦争体験等を語りあった。また、講演会は「おんな達の戦争は、戦後に始まった！」と題して講師・山崎洋子氏が講演。自らの取材によるノンフィクション「天使はブルースを歌う」で明かしたとおり、戦後、横浜市街に捨てられていた混血の嬰兒の死骸の事実とそれが数百年外人墓地に葬られていた事実、そしてその慰霊碑建立に携わったエピソードを講演した。続いて、歌手渡辺はま子が戦後のヒット曲「ああモンテンルパの夜は更けて」によりフィリピンに抑留されていたB、C級戦犯の開放を実現させたエピソードを披露。戦後の女性の悲劇、そして活躍はもっと知るべきだと締めくくった。			参加者数:130名 戦後70年という節目の年に当たり、広島原爆で非業の死を遂げた女優園井恵子のふるさと岩手町から情報発信ができたことに、先ず大きな意義があった。講師の山崎洋子氏は、独自の切り口で戦後の横浜で起こった事実を取材し、ノンフィクションを出版した経緯等について講演したが、戦争と女性について改めて考えさせられ、岩手町で女優・園井恵子を語り継いで行く意味を深く考える機会となった。また、講師とともに園井恵子について学び、語り合う機会を創出できたことは、塾員及び地区民の参加者のモチベーションの向上に大いに寄与した。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	発達障害児・者及び家族支援の会シーズ	長野県 下諏訪町	本田 秀夫	信州大学医学部附属病院こどものこころ診療部部长兼診療教授	発達障害と思春期 医学的な視点から	平成27年7月12日
	講演内容			研修成果		
<p>いわゆる発達障害の「障害」とは、始まり、発達障害の分類ごとにその特性を示した。その上で思春期に関して、発達の過程としての「思春期の危機」、「思春期のアンバランス」といった概念を示した。更に育ち方のタイプとともに、具体的に本人や家族が抱える困難(希死念慮、逆説的高望み、休めない人たち、うつ、不安・恐怖、など)について障害特性との関連から説明をされた。障害があっても社会に適応している「ASWD(非障害自閉スペクトラム)」という考え方を提示された。また、発達障害、思春期の切り口で、「いじめ」、「不登校」にも言及した。</p> <p>参加者数:130名 100名超の多くの方に参加いただき、多くの人に発達障害についての知識、概念、更には本人や家族が抱える困難さを知っていただくことができた。参加者は、諏訪地域にとどまらず、東北信や飯伊圏域、更には県外(山梨、東京)からの参加もあり、地域的にも幅広い参加となった。アンケート詳細は集計中であるが、100件を超える回収で、後援の内容についてはほとんどの人が「とても良かった」、「参考になった」としていただけており、期待に応えられた内容であったと考えている。</p>						
19	特定非営利活動法人 阿波グローカルネット	徳島県 徳島市	①谷越 律夫 ②伊賀 公一	①特定非営利活動法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構 理事長 ②特定非営利活動法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構 副理事長	カラーユニバーサルデザインフォーラム 2	平成27年8月2日
	講演内容			研修成果		
<p>伊賀氏は、色の見え方には多様性があり、その人数も多いのにも関わらず、偏見や差別的な扱いをされてきた歴史について解説し、色に溢れる社会になりさらに不便さが増してきたため、色による情報伝達としての色づかいを配慮する必要性を訴えた。この10年間の活動で、教員現場や、企業の意識はカラーユニバーサルデザイン(CUD)へと大きく流れが変わりつつあり、普及がすすんでいると実感している。</p> <p>谷越氏は、北海道ではテレビ等のマスコミの活用が、CUDの活動や、必要性について周知することに役立っている旨、紹介いただいた。また印刷物や施設のサインなど、色弱当事者によるCUD検証を行い、認証マークを発行することで、さらにCUDの認知をすすめている。</p> <p>参加者数:55名 徳島でのCUD普及活動での悩みや弱みなどについて、アドバイスを頂いたが、マスコミへの訴求が欠かせないことがよく理解できた。今回のフォーラムには、鳴門市職員が研修として参加しており、行政との取り組みも大切ではあるが、企業や教育現場との関係の中で取り組みをすすめていく重要性も、東京と北海道の事例で確認ができた。</p> <p>また、高知県や名古屋で同様のCUD活動を行っているNPO代表者からも意見があり、全国のCUD活動の団体同士で、緩やかなネットワークを結んで、CUDに関する情報交換ができる場をつくり、互いの活動の励みにしたいとの声が上がった。それについて、二名の講師も賛同し、今後協力体制を組むことになった。</p>						
20	公益社団法人 日本青年会議所東北地区秋田ブロック協議会	秋田県 秋田市	①水野 千夏 ②和賀 郷 ③櫻庭 みさお	①株式会社 せん 代表取締役 ②株式会社 こめたび 代表取締役 ③株式会社 エフエム秋田 編集長	第45回秋田ブロック大会メインフォーラム ～郷土愛溢れる輝く秋田の実現～	平成27年7月11日
	講演内容			研修成果		
<p>研修会のテーマである郷土愛溢れる輝く秋田の実現のために、講師である水野氏より県内外で今注目を大いに集めている秋田舞妓の企業化と今後の事業展望を切り口に、これからの秋田が今ある地域資源を活用し持続性のある地域独自の経営戦略で活性化を目指すという、秋田駅に直結する公共施設アルヴェを会場に多くの秋田県民また、秋田ブロック協議会メンバーに対して講演会を開催した。</p> <p>さらに、続けて開催したパネルドiskusションでは県内女学生より録画収録した秋田のもつ素晴らしい可能性と課題をトピックスに、出演者四氏それぞれの経験から戦略的な秋田の活性化を目指す議論が行われた。</p> <p>参加者数:300名 若くして起業された水野氏の講演は、氏の特異なアイデンティティや既存のアイデアから脱却した経営手法を学ぶ機会が得られた。また、秋田県が誇る優れた資源である観光や文化、自然と氏の事業を融合させる戦略的な事業展望から明るい豊かな地域づくりのヒントにつながったと考える。さらに、パネルドiskusションでは付加価値の高い資源と事業の融合がもたらす地域経営の可能性と秋田の発展について、秋田県内九つの地域より参加したJCメンバーと多くの県民で認識を共有し、これからの秋田の活性化に寄与できたと考える。</p>						
21	まちの縁側育みプロジェクトながの	長野県 長野市	延藤 安弘	NPO法人まちの縁側育み隊代表理事 まちづくり 愛知淑徳大学教授	第4回まちの縁側楽会ーまちの縁側をひらこうー	平成27年7月26日
	講演内容			研修成果		
<p>絵本で聴く、音楽で見る、縁側物語と題し、絵本からまち育ての極意を学んだ。講演の形式は、「幻燈会」という形で実施。真っ暗な部屋で、2台のスクリーンに次々と絵本のスライドが映し出され、幻燈師延藤安弘さんが語り、語り寄り添うようにフルートとバイオリンの音色が響いた。紹介された絵本は、それぞれにテーマやメッセージがあり、参加者は、語りと音楽、スライドから想像の世界が広がり、まち育てとは何か、まち育てに欠かせない心は何かを感じ取ることができた。現代社会の息苦しさや生きにくさをハッピーに変えていく発想の転換や相手を思う想像力。トラブルをエネルギーに変えていく力。まちづくりには、人々の利害対立とその調整をする難しく煩わしい営みがあり、真面目・勤勉・管理に縛られたかたくなに閉じた心を取り除き、心の扉を開いていく三つの視点「笑い」「楽しさ」「あいだ」が絵本にあると伝えられた。</p> <p>参加者のアンケートでも人気の高かった、「3匹のかわいいオオカミ」では、強さより弱さ、やさしさが人と人をつなぎ合わせることや、谷川俊太郎の訳で愛されている「スヌーピー」のしあわせはあたたかいぬいでは、しあわせとは何かを改めて感じさせてくれるものであった。子供から高齢者まで90名を超す幅広い世代の参加があり、幻燈会のあとの交流会では、情報交換など活発な交流が行われた。</p> <p>参加者数:93名 当初の目的であった、まちの縁側を多くの市民に伝え広めることができた。今回の研修が「絵本の力」ということもあり、これまで地域づくりに関心のなかった層に働きかけができ、朗読や読み聞かせをしているグループや若い世代の参加があった。また、会場となった寺町商家は松代にあり、平成19年からまちの縁側推進に取り組んできた松代の縁側関係者の協力を得ることができ、広がりを持った。松代縁が輪の会によって松代地区のまちの縁側マップも作成され、今後松代地区のまちの縁側は、内外からより一層関心を集めそうだ。</p> <p>第二部の交流会では、縁側実践者によるお店出し情報交換がなされ、お互いの活動を認め合い、意識を高め合うことができた。</p> <p>会場となった寺町商家は、観光拠点としての役割だけでなく、松代町内外の人々の居場所、まちの縁側となっていくことだろう。</p>						
22	ふるさとづくり上高尾の会	長野県 伊賀市	伊藤 浩正	(株)農楽 取締役	日本ミツバチの養蜂について	①平成27年6月22日 ②平成27年9月12日 ③平成27年11月7日
	講演内容			研修成果		
<p>第1回 日本ミツバチの習性 四季それぞれの時期における日本ミツバチの行動とその捕獲方法 第2回 日本ミツバチ養蜂の魅力 気軽にスタートできて、うまくいけばハチミツを入手できる。同時に共生の思想が大事 第3回 日本ミツバチの越冬 巣箱内の餌の状態や、巣箱周囲の点検等、実際の設置場所にて確認</p> <p>参加者数:65名 研修を通じて、地元住民は当地の有する豊かな資源を再認識。8月下旬、1年住んでいた巣箱から日本ミツバチが逃げ出してしまったが、ミツバチが生息している素晴らしい地域であるとの認識の下、新たに5か所に巣箱を設置して捕獲にチャレンジしている。</p> <p>ふるさとづくり上高尾の会は地域活性化に取り組む小さな有志の団体であるが、こうした研修に共感し2名の方が新たに入会したことは大きな成果です。また、京阪神の親子グループも座学だけではなく、実際に捕獲に取り組み採蜜できる地域であることあらためて感動し上高尾に足を運ぶ動機付けが増えた。</p>						

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
23	高安ルーツの能実行委員会	大阪府 八尾市	①高安 勝久 ②安福 光雄 ③高野 彰	①能楽高安流ワキ方14世 宗家 ②能楽高安流大鼓方【宗家預かり子息】 ③能楽高安流大鼓方	高安ルーツの能実行委員会	平成27年8月6日
	講演内容			研修成果		
八尾ゆかりの流派「高安流」を知っていただく機会とした今回、パネルディスカッションの形式にて高安ルーツの能のこれまでの活動を振り返り、講師からその成果及び感想等が語られた。講座に初めて参加する人が多く、あらためて流派の歴史、特徴、変遷等あらゆる事項をそれぞれの講師より解説。独自の目線からの説明、能楽の基本的な想定論、舞台上での普段観客が聞くことが出来ない苦労話や業界談等、個人的な意見が飛び交った。また講師から八尾高安への愛着も語られた。そして、未来へ向けて、八尾市から高安流の演者が将来誕生することを深く望むと講師の意見が合致し、講演が締めくくられた。			参加者数:50名 高安ルーツの能実行委員会の普及活動は毎年継続的に行っているが、今回の講座は初参加者も多く、あらたなアプローチをすることができた。現在、能楽高安流の演者は大阪府下には存在しない。この事柄を受講者にも認識を促し、地域にまつわる流派として将来継承されていく架け橋となるきっかけづくりとなった。また講師の皆さんも流派のルーツに凱旋し、地域の歴史に興味のある住民、造詣のある住民との交流を更に深めることができた。今後も、今回の講座の成果をふまえ、地元ゆかりの歴史文化を活かした地域活性化や観光資源の拡大に取り組んでいきたい。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
24	くわなPCネット	三重県 東員町	水谷 光伸	パソコン TMスクール 代表	～地域コミュニティを育む～SNS活用！	①平成27年8月27日 ②平成27年9月10日
	講演内容			研修成果		
① SNS入門！ (その1)地域コミュニティを育むSNSの歴史的な流れの解説 <要旨>「2000年代後半以降、さまざまな地方自治体や団体で地域活性化を目的として導入された 地域 SNS というソーシャルメディアの形態は、2010年代に入り、グローバルな広がりを持つ新たなソーシャルメディアにその広報機能やコミュニティ機能を移しつつある。地方自治体の用いる情報発信ツールはすでに地域 SNS から facebook・twitter・LINE といった新たなソーシャルメディアに移行しつつある。住民同士の交流の促進をねらって導入された地域 SNS はその役目を facebook などに移し、その役目を終えつつある。また、その導入目的も地域 SNS において「交流」が主眼であったものから「情報提供」中心になりつつある。その情報提供が媒介となり、リアルなコミュニティ活動につながる事例も見られる。このことはグローバルな広がりを持つソーシャルメディアに自治体が発信する情報を介してつくりあげる「コミュニティ・オブ・インタレスト」の可能性を示すものと言えるかもしれない。」 (その2)youtube, twitter, facebookについて特徴を説明(プライバシー設定なども含めた説明) ② SNS実践！ (その1)地域コミュニティを育むSNSの歴史的な流れの解説。 (その2) youtube, twitter, facebookの詳細な機能を説明。 (facebookならグループ作成する機能など、twitterはリストの機能など、youtubeは公開範囲を設定してグループで趣味の動画コンテンツでコミュニケーションをとったり、全般的には公開範囲の設定、災害時の伝達機能、他のグループとの連携などの説明)			参加者数:28名 ① 地域のコミュニティを育むためのツールとしてyoutube, twitter, facebookについて特徴を理解して自分に合ったSNSを見極め、安心安全に使える知識を習得していただけた。 ② 地域のコミュニティを育むためのツールとしてSNSを活用、使いこなすためにfacebookならグループ作成する機能など、twitterはリストの機能など、youtubeは公開範囲を設定してグループで趣味の動画コンテンツでコミュニケーションをとったり、全般的には公開範囲の設定、災害時の伝達機能について知識を習得していただけた。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
25	国際交流の会・かるみあ	福島県 郡山市	堀 永乃	一般財団法人グローバル人財サポート浜松 代表理事	多文化パワーと地方創生～未来をデザインする日本語支援～	平成27年10月3日
	講演内容			研修成果		
在住外国人が安心して生老病死を迎え入れられる街は、おそらく日本人にとっても「いい街」であるはず。環境を整えば、在住外国人は日本人と同じ住民として、「伝統」を守り、「自然」を育み、「要介護者」や「産業」を支える人、「文化」を伝える人、「家族」を生む人として、しっかりと地域に貢献する人になっていけるのです。外国人も住みたくなる街、自己実現が果たせる街として、地域を創っていきませんか。これからの地域創生に、外国人住民の力は欠かせません。もはや日本語教育という「枠」に囚われずありとあらゆる点とつながり、あなたの住む地域を構築してほしいと思います。			参加者数:98名 日本語教室の役割は、在住外国人に日本語を教え、地域の情報を伝え、地域住民にたぐりあう場、安心できる居場所として考えられてきた。堀氏によると、在住外国人の支援をしていくなかで、大きな壁がたちはだかり、周りの「日本人の意識」が強烈な向かい風となっている場合があるそう。日本語教育関係者の役割は、ホスト社会側の意識改革を促すこと。外国人住民がいることのメリットや意義をしっかりと認識してもらえるようにすることがさらに求められているというメッセージをいただいた。外国出身者もこれからの地域の未来を作っていく仲間であるという認識を深め、地域創生について考える機会となった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
26	諏訪自然塾	長野県 茅野市	平井 孝志	理学博士 微生物的環境技術研究所 主幹	土のいのち	平成27年9月27日
	講演内容			研修成果		
現代は自然環境汚染が深刻になっています。私たちの食べる食料も、農薬や除草剤等で汚染されています。そのような食料を長い間食べ続けることで、昔とは比べようもないほど、癌等の発生率が急激に伸び、今では癌の死亡率がトップに躍り出ました。健康な食を提供できないという問題は、私たちの自然治癒力を低下させ、それが医療費の増大や社会保障費の膨大な負担を招いています。このような負の連鎖を断ち切るには、環境の浄化、正常な農林水産業の復活が不可欠です。その鍵を握っているのが、「水、ミネラル、微生物」の3点セットです。			参加者数:120名 今回の講演には、120人ほどの人達が参加してくれました。2時間の講演が終了した後、1時間の質疑応答の時間を設けました。無農薬でお米や野菜を作るには、どのような形で微生物やミネラルを用いなければならないのか、具体的な質問が出ました。また、微生物やミネラルは人間の体にとって、どのような働きがあるのかという質問も出されました。1時間の質疑応答でしたが、最後まで質問が続き、終了後の二次会の懇親会に約20名もの参加者があったことから、関心の高さを示していたと思います。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	高橋 晶子	建築家、武蔵野美術大学造形学部建築学科 教授	老朽化した卸センターオレンジホール建替え設計の提案	平成27年10月31日
	講演内容			研修成果		
武蔵野美術大学 教授 高橋晶子先生がコンペには当選された時の苦労、考え方を今の生徒がわかりやすいように写真等を交えながら講演をいただきました。その中でも人々が建物の中で一番気持ちいい場所、居心地のいい場所はどこのかを常に考え建物の設計を行っていただけること。また、今は実現できなくても将来、素敵な空間を作り出すうえで、必要な素材、考え方を自分の中で整理し、確保しておくことなどを、ご自身の作品紹介をする中で、前々から考えていたものがやっとな実現できたことなども踏まえ講演をしていただきました。					参加者数:157名 実現可能な毎日人が集える「キになる建物」をテーマとした6校11チームの模型とプレゼンテーションを5分発表、10分質疑応答とした公開コンペとしてプレゼンでは発表しきれなかった内容を各テーブルで学生が話しやすいように水を向けていただきながらの追加説明を各チーム5分ずつ持たせていただきました。普段の課題の中での考え方はまた一つ違う形での建築設計への一面を感じることのできた時間であったと思います。高橋先生からは、総合的に建築デザインは全国的にもそんなに劣ってはいない、しかし伝える力は全くダメと厳しい評価もいただきました。最優秀賞は、岡山理科大学、今回、共催いただいた間屋まち未来賞には、初受賞で岡山工業高校でした。	
28	あじ朗志組	宮城県石巻市	阿部 雄	少年少女自然探偵団 団長	子どもたちのまるごと島体験「網地島ふるさと楽好」	①平成27年8月3日 ②平成27年8月4日 ③平成27年8月5日
	講演内容			研修成果		
宮城県仙台市内の児童養護施設の児童、生徒及び職員を宮城県石巻市網地島に招待し、都会の生活ではなかなか経験することが出来ない、シーカヤックや釣り、記念Tシャツのプリント、餅つきなどを通じ、豊かな自然と伝統、そして島の高齢者とのふれあいを体験してもらうことを目的に「網地島ふるさと楽好」を開催。 講師に、アウトドアアーティストとして活動する、少年少女自然探偵団団長の阿部雄氏を招き、自然との関わり方、海での遊び方、Tシャツプリント、シーカヤックの操船方法などについて、網地島の自然を教材とし、講師と島の高齢者とが連携して、参加した子供たちの指導にあたった。					参加者数:52名 「網地島ふるさと楽好」を実施し、自然との関わり方、海での遊び方、Tシャツプリント、シーカヤックの操船方法について、講師と島民が連携して実技指導を行い、網地島の自然をまるごと体感してもらうことにより、参加した子供たちは、この体験を通じて自然の大切さを学習することが出来た。また、島民との交流の中から東日本大震災の体験談を聞くなどして、子供たちへの防災教育にも役立てることが出来た。 子どもたちの心の涵養はもちろんのこと、子供たちを迎える殆どが高齢者となった島民にとっても、子供たちへの指導を通じ、改めて網地島の豊かさへの誇りを持つことに生きがいを感じることができ、今後の更なる地域コミュニティの維持へと繋げていきたい。	
29	特定非営利活動法人長野サマライズ・センター	長野県塩尻市	出口 治明	ライフネット生命保険株式会社 会長	地方におけるソーシャルビジネスへの取り組み方	平成27年8月1日
	講演内容			研修成果		
「ネット生保から学ぶソーシャルビジネス～地域おこし～」と題して、「生きること、働くこと」/タテヨ思考の重要性」「数字・ファクト・ロジックのみで考える」等 出口会長の生き方から学び、その後「地域おこしを考える」のテーマで、地方におけるソーシャルビジネスの考え方や、ヨーロッパなどの成功事例のご紹介をいただいた。 最後は、参加者と車座になって、1時間半を越える質疑に答えていただいた。					参加者数:42名 多様な質問にも適切に回答いただいたことや、質問から連想される出口さんの考えをお聞きできた事で、それぞれの世代や仕事、生活環境において役に立つ内容で、地域のあり方について、納得の声が上がった非常に満足度の高い講演となった。 大学生から若手会社員、自営業者、教員、行政職員、退職後の方まで、非常に多様な年代、立場からの参加があり、新たなネットワークを構築につながり、ビジネス交流の話も出された。	
30	芦屋TIOクラブ	兵庫県芦屋市	福 小介	腹話術 全日本腹話術協会本部 会長	ボランティア養成講座「やってみよう！楽しい腹話術」	平成27年9月～11月第2・4木曜日 平成27年12月第1・3木曜日
	講演内容			研修成果		
本格的な腹話術人形を使って人形の声出し発声練習、人形の胴違い、頭違い、セリフで声の切り替え、術者の表情や人形の表情などのレッスン、腹話術のネタと演出を自分で考え実技を行います。人形を通してのコミュニケーションが魅力の腹話術は、精神的ヒーリング、笑うことがストレスを緩和し免疫力系のバランスを快復し自然治癒力や脳を活性化させます。演じる人も観る人も世代を問わず楽しめる腹話術を身につけ、仲間作りや生きがい作り、仕事やボランティアに活かして、人も自分も笑顔でハッピーをめざしましょう。					参加者数:71名 伝統的な芸能文化として奥が深い腹話術を特技技能として生涯学習します。アンテナをはり現代社会の出来事や人間観察からネタをつかみ、笑いで脳の活性化をはかります。ボランティア活動を通じて積極的に地域のイベントなどに参加して、シニア世代のパワーを地域力として地域活性化に貢献します。人形には心を聞き易いという特徴により、高齢者のケアから幼稚園や小学校でもコミュニケーションを図りつながりを深めることに大きな効果が期待されます。芦屋キッズスクエア(放課後子ども教室)に参加し世代間交流を図ります。 自主グループ「あしや腹話術倶楽部」を立ち上げました。(参加者の声) この講座がボランティアを始めるきっかけとなり楽しみながら続けられます。 ・笑いが癒しになることで、孤立している高齢者に話しかけることができます。 ・生涯学習の場として自分磨きをしながら人の役に立つことが嬉しい。 ・喜んでくれる人がいて、仲間が増え人生が大きく変わりそうです。	
31	大崎自然界部	茨城県大崎市	向井 康夫	東北大学 生命科学研究科 博士研究員	総合的な学習講師養成講座～四季を感じさせる教育とは～	①平成27年8月20日 ②平成27年9月6日 ③平成27年9月13日
	講演内容			研修成果		
1年を通じ「総合的な学習」を地域や学校・児童館から依頼される大崎自然界部は、子供たちと四季折々の香り・風とその場にいる生き物たちを通じて、体験・活動で本来の興味・関心・考える力を育てつつ、さらには観察～採取～飼育をすることにより、コミュニケーション能力・優しさ・問題解決、命の大切さを身につけることを目的に、学校、市民の連携の強化、養成、研修システムの整備を進めていきたいと思っています。今まで、多くの学校で環境教育が実践されているものの、内容・方法等はさまざまに共有化が十分とはいえません。そして、環境問題のみに目を向けるのではなく、講師自身の自然観や人間観を共有化し、高める必要もあると思っています。そのため、今回、実践を踏まえた研修会を開催することで、大崎自然界部等の各講師の技量を高めていく内容を実施しました。					参加者数:50名 田んぼでの生きもの調査、蕪栗沼でのトンボのヤゴの調査、蕪栗沼での水生昆虫等の調査、蕪栗沼での生きもの調査の実践を通じて、生物の多様性等について、子どもたちへの伝え方等を講師から学びました。大崎自然界部の会員等にとって、今後の活動を行っていく上で、貴重な研修となりました。 今回学んだことをベースに、子どもたちへの伝え方、子どもたちの学ぶ力を引き出して行けるように、研鑽を重ねていきます。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
32	奥松島産業振興協議会	宮城県東松島市	小野 雅則	調理師(専門:トランプ)	フグの調理に関する研修会	平成27年8月28日
	講演内容			研修成果		
講習会では第1部でフグの知識やフグの毒についての講演、その後第2部ではトランプ、ヒガンフグの調理指導をしていただきました。					参加者数:14名 受講者は、フグの毒について、詳細なことまで知らないため、興味深く話を聞き、フグの捌き方、調理方法等大変勉強になったとの声が聞かれました。今後のフグのブランドに向け、今後の活動の中で引き続き技術の習得を目指していきたいと思います。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
33	NPO法人小田原まちづくり応援団	神奈川県小田原市	定村 隆久	老松永安左エ門記念館 管理人	松永安左エ門 老松と小田原をつなぐ講演会	平成27年9月12日
	講演内容			研修成果		
電力事業の基盤整備に邁進した実業家で茶人・耳庵としても知られ、晩年を小田原で過ごした松永安左エ門(耳庵)の人生の軌跡をたどるべく、松永翁の顕彰活動を長く勤めてこられたお二方をお迎えし、お話をうかがった。老松永安左エ門記念館の定村隆久さんには「実業家・電力王としての松永翁の事績」、小田原市松永記念館の浜田和政さんには「茶人・耳庵の小田原における庭園造り・建物造り」というテーマで講演していただいた。さらに後半のパネルディスカッションでは、松永翁の人的魅力、老松と小田原における松永翁に対する認識の違い等について語り合っていた。					参加者数:85名 松永生誕の地・老松と終の棲家となった小田原、それぞれの地で松永翁に熱い思いを寄せる二講師の講演と対談は、実業家として、また、茶人として多角的な人間性を持つ松永翁の人となりや現代にも通じる考え方について理解を深める機会となった。 市内はもちろん、県内外からも多数の参加者があり、「松永への認識を新たにしたい」「老松に行ってみたくなった」等の好評を多くいただいた。本事業を契機として、老松と小田原の交流の促進等、今後の展開も期待できると考えている。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
34	あきたESDネットワーク	秋田県 秋田市	①伊藤 聡 ②柏崎 未来 ③黍原 豊	①三陸ひとつなぎ自然学校 ②三陸ひとつなぎ自然学校 ③一般財団法人三陸駒舎	若者が担う～地域づくり・根付く人づくり～	平成27年9月26日 ～平成27年9月27日
	講演内容			研修成果		
大学を卒業して20年、これからの20年は今まで同じでよいのか?立ち止まって考えているところに、震災。経済や効率主義に振り回されない生き方がいいのか?家族で移住。NPOや釜援隊(地域協力隊)を経て、活動で得た「馬と古民家で暮らし、馬から生きる力を学ぶ」組織を立ち上げた。古民家を一緒に再生させていく過程も大切にし、皆とワークショップを重ねている。					参加者数:50名 葛巻で「森と風の学校」や県立児童会館の運営経験、経済や効率を追いかける社会があるのも理解はできるが、ぶれない自分の価値観を持っている。地域協力隊という新たな出会いが、次の20年に繋がろうとしている。経験、考え、行動がうまく繋がること、そして地域に根付く人づくりににはある程度の時間が必要だと知った。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	NPO法人アレルギーを考える母の会	神奈川県横浜市	①西間三肇 ②赤澤 晃 ③長谷川 実穂 ④馬場 耕一郎	①独立行政法人国立病院機構 福岡病院名誉院長 ②東京都立小児総合医療センター アレルギー科部長 ③相模原病院臨床研究センター 研究員 ④保育専門官 厚生労働省雇用均等・家庭児童局 保育課	平成27年度アレルギー啓発講演会「家庭と地域でアレルギー児を支えよう」	平成27年9月27日
	講演内容			研修成果		
1)主催者挨拶 園部まり子・「母の会」代表、坂元昇・川崎市医務監 2)基調講演「アレルギー疾患対策の方向性・基本法の施行に向けて」西間三肇先生 3)講演「正しく知ろう食物アレルギー」・エビベン実習 赤澤晃先生 4)講演「困らない食物アレルギー対応食 家庭や園での工夫」長谷川実穂栄養士 5)シンポジウム「家庭と地域でアレルギー児を支えよう」登壇者及び馬場専門官 6)個別相談					参加者数:180名 神奈川県、東京都を中心に愛知、大阪などからの参加者、役員も含め180人が明るく熱心に参加した。本年12月末に施行されるアレルギー疾患対策基本法を含め、最新の食物アレルギー対応について詳しく解説していただいた。シンポジウムでは家庭と地域でアレルギー児を支えるために寄せられた質問一つ一つに具体的に答えていただき、「エビベンを実際に初めて触った」「適切な対応がわかってよかった」など、参加した皆さんが解決策を見つけることができた充実した会となった。講演会の模様は、一層の社会啓発の一環として、先生方の了解と(公財)日本教育科学研究所の協力で、11月末から「母の会」HPでの無料動画配信が決まった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
36	特定非営利活動法人シャローム	福島県 福島市	保住 将文	彫刻家 チャパス州立芸術科学大学准教授	彫刻家「保住将文氏」と創る蒼龍伝説の公園、石彫ワークショップ。	平成27年9月25日 ～平成27年9月27日
	講演内容			研修成果		
9月25日(金)前日からの強い雨模様のため、予定の公園使用を中止。メインの参加者として予定していた、障がいをもつ仲間たちの通う施設でのワークショップに切り替え、「動物の彫刻公園をつくらう」とのテーマで、粘土を使った動物作りと物語作りのグループワーク。 9月26日(土)雨が上がり予定した公園内での石彫の実践。前日の「動物の彫刻公園をつくらう」のテーマを聞きながら現在の龍との融合と既存の公園の現状を語りながら、将来を語った。 9月27日(日)26日のように作業をし、昼食を兼ねながらメキシコ料理と日本の野外定番の焼きそばで交流を深めた。					参加者数:67名 初日、雨のため切り替えたテーマ作りとグループワークは、障がいをもつ仲間たち23名の中で進められたが、テーマに沿ってしっかり理解され、個々の動物作りでの発想や楽しみ方とその様子、また他の仲間で作った動物とのコラボによる物語づくりなど、彼らのすばらしい能力、発想と技術を見ることができた。これらを活かし、実際の公園とその管理者へ、新しい彫刻公園づくりへの提案をしながら、市民が集い、将来への夢を語りながら、子どもや障がいをもつ仲間たちと継続的に進められる事業は、すばらしい「地域づくり」であることをあらためて感じる事ができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
37	NPO法人こどもステーション山口	山口県 山口市	時田 美昭	映画監督 テレビ新潟報道副部長	子どもの夢を育むまちづくり	平成27年10月12日
	講演内容			研修成果		
「夢は牛のお医者さん」をドキュメンタリー番組として最初に撮ってから足かけ26年、監督として出会った少女とその夢を支えた家族の愛。さらに子どもを見守る地域の人たち、「故郷」「仕事」「現実の厳しさ」、夢を実現し、母となって「いのち」と闘っているようすについて、またテレビの番組から映画になった経緯や撮影秘話なども話してもらった。					参加者数:60名 この映画と講演を通して、子どもが夢をもつことのできる地域や社会をつくることとおとなの責任である実感できた。そして人と人がふれあうことで、ゆたかな子ども時代を育むことができるということや「ふるさと」の大切さを多くの人が感じた。感想には感動の声が多数寄せられた。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
38	特定非営利活動法人いちかわライフネットワーククラブ	千葉県 市川市	井関 利明	慶應義塾大学 名誉教授	地域活動に活かすマーケティング技法	平成27年9月5日
	講演内容			研修成果		
これまで産業界で大きな役割を果たしてきた「マーケティング」の本質は、営業、宣伝といった意味ではなく「市場」にどうアプローチするかという姿勢であることを確認し、今日、我々が直面する少子高齢化や環境などの問題は、行政や企業活動だけでは解決できず、NPO始め市民力にゆだねられているが、そこにもまたマーケティングにより対象市場を科学する姿勢が重要であると説かれた。					参加者数:93名 今回は「いちかわTMO講座」8期受講生16名のほか、修了生8名、一般参加者若干名、運営、市職員が聴講した。受講生の大半はボランティアなど社会活動を志しているが、これまでの活動に対しマーケティングの考えを取り入れ、コミュニティビジネスに発展させるという考え方に驚きの声が多かった。一般参加者の一人はその場で受講を希望され、8期受講生は17名となった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
39	細呂木地区創成会	福井県 あらわ市	宮島 慎吾	武蔵野美術大学教授 基礎デザイン	土産物等製品開発の基本について	平成27年9月4日
	講演内容			研修成果		
1) 地域ブランドの形成の視点 地域の力を創るには「発信、風景、催事、もてなし、産物」の5つの視点で統合された力が完成形であるが、初期は導入し易い点から推進し、それぞれの力を形成する。 2) 「産物」はブランドの「撒き餌」である ①十勝本別の事例 知名度がゼロの本別町の豆をデザインの力により地域のブランド化。生産者と行政と推進するコンサルで取り組んだ。先ず有名な「十勝」を活用し「十勝本別」を「ロゴ」化し、ターゲットを20代女性に絞り込み、商標を「キレイマメ」とした。ギフトを中心に販売が躍進。 ②常磯浜の事例 東日本大震災で被災した会社の再興プロジェクト。新しい販売ルートにチャレンジ。内容量やパッケージを都市生活者に合わせ、5種類の海藻をギフト中心に展開。東京ビッグサイトの出展し知名度を上げた。 3) 「風景」の魅力は地域のブランドの基盤である。 新潟市岩室温泉にトータルデザインで地域を活性化させた事例 4) 「催事」は人々の吸引装置である わらアートの取組みと全国の事例 5) 「もてなし」は人へのコミュニケーションの気遣いである 商店街へのデザインイン(統一カラー、看板)の事例 6) 「発信」しなければ何も起こらない ターゲットに合致したネット、雑誌等での発信事例					参加者数:24名 一生懸命に取り組めば成果がでるのではなく、如何に取り組むべきかが明確になった。研修内容を活かし、先ずは下記に取組む。 ①地元食材や素材の特徴、特質を顕在化させる 観光道路「フルーツライン」沿線の果樹 ②顧客は誰かを明確にし、ターゲットを絞り込む マーケットを創る若い女性に焦点を絞る ③その訴求力にマッチした食味、機能を明確にする 健康や美容への効果を明確にする ④顧客がピックアップし易いパッケージングが重要である イメージや取扱い容易性への配慮したデザイン ⑤ターゲットへのPRも広告媒体を絞り込む 20代女性向けの雑誌、ネットを活用 ⑥わらアート(アッ! わら)を計画する JR&フルーツライン沿線に恐竜、イノシシの「わらアート」を展開し、誘客と「フルーツとの出会い」を強化する。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
40	千曲市川西地区振興連絡協議会	長野県 千曲市	山折 哲雄	国際日本文化研究センター 名誉教授	姨捨観月祭協賛	平成27年9月27日
	講演内容			研修成果		
若き日に訪れた千曲市の思い出。名月の郷、歌枕の里、さらしな姨捨の素晴らしさ。月に重ねた先人の思いなどを語る。また、西行『願はくは 花のもとにて 春死なむ』その如月の望月の頃』、道元『春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて 涼しかりけり』、良寛『形見とて 何かのこさむ春は花 夏ほととぎす 秋はもみぢ葉』それぞれの和歌より人の生き方を考え、地域に活かすよう解説。					参加者数:180名 散策や先生の回顧談を交えた講座等を通じ、名月の郷、歌枕の里姨捨の歴史や文化、景観の素晴らしさを再認識。さらに、西行、道元、良寛の和歌を引用、素朴な山村、心豊かな暮らしの魅力を呼び起こし、人として生き方を考え、地域活性化にむけて協力し合う大切さが浸透、明日の地域づくりにつなげる素地が出来たと思います。また、新聞報道などにより、姨捨観月祭などの行事の盛り上げにも貢献できたと思います。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	奥但馬小代塾	兵庫県 香美市	①大湯 章吉 ②木下 道則 ③rorat kacper ④岩本 好未 ⑤koldinska alena ⑥松沢 優香 ⑦pisha athonoechakorn ⑧朝比奈 友里	①総務省地域力創造アドバイザー ②NPO法人玄武同ガイドクラブ代表 ③ポーランド ④名古屋大学 ⑤チェコ ⑥京都大学 ⑦タイランド ⑧慶應義塾大学	インバウンドってなに	平成27年9月10日
			講演内容		研修成果	
<p>インバウンド (inbound) 外国人旅行者を自国へ誘致すること アウトバウンド (outbound) 日本人旅行者の海外旅行</p> <p>1. 外国人旅行者訪日促進戦略より多くの外国人の日本への来訪を促すために、調査等を行い市場を見極めると同時に、それらのニーズに応じた旅行商品を開発し、それを海外で広報する。外国人が訪日しやすいように旅行査証所得の負担を軽減したりする。</p> <p>2. 外国人旅行者受入れ戦略 外国語で書かれた案内など、外国人旅行者に向けたインフォメーションの整備を行う。観光地などで外国人旅行者を歓迎する雰囲気の醸成を行う。</p> <p>3. 観光産業高度化戦略 観光産業をさらに発展させていくために、新たな観光事業の展開を図る事業者への支援を行ったり、観光関連産業の連携強化を支援する。</p> <p>4. 推進戦略 これらの戦略を、官民が連携しつつ推進し、各施策の目標達成度を常に測り、新たな戦略を構築して行く。</p> <p>今後の課題 ① 訪日外国人の訪問先は一部の都道府県に集中② 外国人宿泊者の8割以上が東京都、大阪府など上位10都道府県に集中③ インバウンドによる経済効果は地方に波及していない④ 語学力を持った人材の不足⑤ 大阪市における宿泊施設数が不足⑥ 受入体制が不備⑦ 訪日外国人と日本国民との間の理解不足に起因するトラブルが発生⑧ 訪日外国人と日本国民一般の双方に対する啓発が必要かつて玄武洞は孤島のような所で渡り船で一部の観光客が訪れていた。近年ジオパーク認定となり豊岡市の観光スポットである城崎温泉とコラボし共に玄武岩のジオをガイドする事となった。今年の取り組みとして、玄武岩のライトアップ、ガイドの養成などで年間3,000人の案内を見込んでいる。ガイドは特に世界の言語を必要としているわけではない。特に分からなければ通訳や添乗員を通して聞けばよい。</p> <p>① 外国語表記が無く、日本語も英語も十分に理解できない者は厳しい② アクセスが難しい。ダイアグラムの見方、マップの理解が難しい③ この町をPRするためにSNSなどの活用が更に必要④ 外国人には特別の扱いではなく自然体のほうが良い⑤ トイレ、は必要不可欠です。⑥ 誰に来てもらいたいのかによって、ターゲットを絞り込んだPR戦略を立ててから発信する。</p>			<p>参加者数:名 講演を聞いた現状では殆どの参加者は他の地域の出来事、この町では無理との反響であったが、現実として捉え積極的な働きかけでもないが必要なことは取り組みたいとの意見が多数出ていた。 参加者に如何に興味を持たせるかをガイド目線で参加者から引き出すかがポイントであろう。気をつけなければ成らないのは、参加者の宗教、思想などには相当気をつけて望んでいく必要がある。</p> <p>1. 早速町中に英語表記の看板作成と設置を行った。(写真参考)添付 2. ガイドクラブの発足 3. 足元の話題であるジオパークの講演会等に積極的な参加をしている。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	まねびとネット	島根県太田市	①永瀬 節治 ②高峰 博保 ③森山 昌幸 ④奥村 美香	①和歌山大学観光学部観光経営学科 准教授 ②株式会社ぶなの森 代表取締役 ③株式会社バイタルリード 代表取締役 ④出雲神話語り部の会ガイド	持続可能な観光と地域づくり	平成27年10月31日
			講演内容		研修成果	
<p>国鉄大社駅が開業してできた参詣道が「神門通り」と命名され、また神門通りの大鳥居が完成し、100年目を迎えた。この記念すべき年に温故知新の気概で100年前の地域づくりを振り返った。</p> <p>大社地区は肩を並べる市場地区と馬場地区の二つの拠点から町が形成されている。駅舎誘致の綱引きは今の新幹線ルート問題のようであった。結局、どちらでもない町外れの場所に。新駅舎が完成すれば抱き合わせで新参詣道建設の話が浮かび上がる。しかしそのご時世も財政難がネックとなり県議会が紛糾。結局、遅れながらも駅舎が建ち新参詣道も完成した。その過程には政治家の活躍や篤志家からの寄附などエピソードも様々に。</p> <p>そうした歴史を紐解きながら永瀬先生が建築学、都市計画学、観光学を網羅した大社駅及び神門通りの過去・現在について鑑賞を語られた。</p> <p>なお、諸般の事情により、当日の開催時間を15:00～18:00に変更し、パネルディスカッションゲスト講師の一部を変更して実施した。対象経費等に変更はなし。</p>			<p>参加者数:44名 永瀬先生により「神門通り」を①ゲートウェイ②ランドデザイン③近代化遺産という3キーワードで光を当てられその価値を新たにしたところ。 その過去・現在についての鑑賞に目を開きながら、次のパネルディスカッションにおいては大社の未来、今後の観光の町づくりをテーマとした。 近隣地区から招いたガイド等のパネラーからは連携して魅力ある個別ツアーを仕掛けていこうという提案を受けたり、タクシーを使った個別交通インフラの工夫など新たな知見を得たりととても参考になった。 参加された地域の地域づくり団体、商店街、商工会、観光協会のメンバー及び一般の方々からは持続可能な観光と地域づくりについての質問・意見が活発に行われた。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
43	くらフォーラムin八ヶ岳	長野県 茅野市	①長田 五郎 ②広瀬 俊雄 ③川島 弘 ④矢崎 靖雄 ⑤中澤 準一	①横浜市立大学経済学部 教授 ②広島大学名誉教授 ③喫茶店経営 ④ボーイスカウト長野県連 副連盟長 ⑤なし	戦後70周年記念講演会「原爆の子の父・長田新を語る」	平成27年9月26日
			講演内容		研修成果	
<p>①協賛演奏・中澤準一と小森林の会(バンドーラとバイオリン演奏) 13:05～13:45(40分) ②「父・長田新を語る」長田五郎(横浜市立大名誉教授) 13:45～14:45(60分) ③「ベスタロッチャー精神をもとに理想の教育に挑む」 ～いま、私が実践している子どもの教育～広瀬俊雄(広島大名誉教授) 14:35～15:35(60分) ④パネルディスカッション(参加者からの質疑応答を含む) 15:45～17:00(95分) (講師+パネリスト・川島弘、中澤準一、矢崎靖雄) 長田にまつわるエピソードとベスタロッチャー教育観の影響など</p>			<p>参加者数:136名 ・新聞等のメディア報道を通じて広く市民(諏訪6市町村中心、なお全小中学校に各学年宛資料を配布)に長田新の存在と功績が知れ渡った。(別紙参照) ・地元地区の理解が深まり、生家跡保存に積極姿勢が増加した。 ・今後生家跡を「長田新・ベスタロッチャー公園」として整備することが提起された。</p>			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	石鳥谷第八区自治公民館	岩手県 花巻市	志村 尚一	有限会社ウィルビー 代表取締役	資源と人材を活かした地域づくりをめざして	平成27年9月27日
	講演内容			研修成果		
<p>＜講演要旨＞ 現在、地域再生で三陸沿岸市町村と人口減少により岩手県で一番最初に消滅する町と言われている西和賀町に入っている。特に三陸沿岸部では、震災直後は「命」でつながっていたが自立できる人から仮設から出ていくために弱い人が取り残されている。また、西和賀町でもいえることだが、世代や職業、地域が「つながっていない」。地域の未来を築くためには、「10年後に若者が結婚して子供を育てていける環境をつくらなければならない。そのためには「人材育成と仕組みづくり」が必要だ。 大瀬川には可能性がいっぱいある。まずは地区内の資源(土、温度、雨量等)と人材を調べてみよう。そしてそこから気づいたことをみんなで話し合っていく。</p>					<p>参加者数:48名 研修会終了後、参加者から「今回の研修会をきっかけとして地区内の関係団体(農家組合、女性団体等)に声をかけて地域づくりの話し合いを持ちたい」と声があがり、稲刈り作業終了後の11月に会合を持つことになった。また、来年度事業として講演の中で事例として紹介された『西和賀町の資源と人材を活かした地域づくり』を農家組合と合同で視察研修を実施する予定である。 公民館としては、今後おこなわれる話し合いを継続して当初の目的でもある『石鳥谷第八区活性化計画』の策定に向けて取り組んでいきたい。まさに大瀬川に大きな「種」が蒔かれた研修会であった。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
45	たきかわ環境フォーラム	北海道 滝川市	鎌仲 ひとみ	映画監督	エネルギー政策を含むまちづくりに関する市民理解と参加意識の向上について	平成27年10月31日
	講演内容			研修成果		
<p>映画『小さき声のカノン―選択する人々』にも登場する「NPO法人チェルノブイリのかけはし」のメンバー山口裕紀江さん、館岡正子さん、山本由美子さんと、「東日本大震災被災避難者自助団体みちのく会」の小祝美雪さんの4名が出演しました。この団体は、チェルノブイリ原発事故の放射能汚染で体調不良に苦しむ子供たちを日本への転地療法によって健康回復をはかる「保養里親運動」をはじめ、被災地に対して様々な救援活動を行なっています。講演はパネルディスカッション方式で行い、子供たちの受け入れを始め、会の活動について紹介がありました。会場の参加者からは出演者に対する意見や質問で熱心なやりとりが行われました。</p>					<p>参加者数:85名 参加者が福島やチェルノブイリからの子供たちの保養の現実を知り、地域や社会で様々な活動が必要であることを知りました。さらに、活動に参加するだけでなく現状を知ることだけでも、地域社会での生活を意識していけることを学びました。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
46	特定非営利活動法人いろはは企画	栃木県 真岡市	①櫻井 慎也 ②西川 政吾 ③横須賀 貞夫 ④安藤 千江美 ⑤下田 典子	①ビール麦生産者 ②カンパク株式会社製造部長 ③宇都宮ブルワリー株式会社代表取締役 ④ナチュラルフードコーディネーター ⑤株式会社Seeders代表取締役	日本一の生産量を誇る栃木のビール麦で地方創生!	平成27年10月13日
	講演内容			研修成果		
<p>第一部 パネルディスカッション 生産者からは、大麦生産の流れや苦労話、製麦会社からは、麦芽に加工する技術と内容成分の変化について、ビール生産者からは醸造やビール生産の現状について、フードコーディネーターからは大麦や麦芽の持つ食品機能性についてなどを話していただいた。 第二部 ワークショップ ビールや大麦を使った料理を試食しながら、大麦の持つ味わいや特徴、調理法などを体験し、大麦の可能性について話し合った。</p>					<p>参加者数:38名 大麦生産者やビール醸造者、フードコーディネーターからの説明や大麦を使った料理の試食により、栃木県の大麦生産の状況を知っていただき、実際に栃木県産の大麦やビールを口にするのが初めての方も多く、楽しみながら栃木県産の農産物への愛着をもっていく事が出来た。ビール以外での大麦の活用についてもいくつか提案がでて、今後の地域活性化に向けて活動の幅が広がった。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
47	宿場町枚方を考える会	大阪府 枚方市	①西川 寿勝 ②塚口 義信	①大阪府教育委員会文化財保護課副主査 ②堺女子短期大学名誉学長・文字博士	宿場町枚方を考える会 創立30周年記念講演会	平成27年11月15日
	講演内容			研修成果		
<p>西川寿勝氏 (1)くらわんか舟の食事は18世紀の日本人の生活に根づいた夜食がわりとされ、茶碗は夜食に使われる磁器が使われた。18世紀以降、飯盛女が増え、くらわんか舟も隆盛し、安撫に手に入れられる波佐見焼が使われた。(2)1914年、大正天皇統監の陸軍大演習が枚方交野に展開された。鳥羽伏見戦争で行われなかった枚方での実戦のようであった。(3) 難波堀江の開削と茨田堤の完成は考古学的発掘調査から仁徳天皇の5世紀前半のことであろう。また5世紀後半の馬飼集団の四条畷周辺の大規模遺跡から継体天皇時代の発展が窺える。 塚口義信氏 継体天皇が楠葉に即位したのは、系譜が父系は応神、母系は允恭で本拠地が近江の坂田や三島と深い関わりがあり淀川流域となる必然性があった</p>					<p>参加者数:230名 いずれのテーマも30周年事業にふさわしく、本会会員の参加意欲を高め、識見の向上につながった。また古代史により郷土への関心と呼べたことは、多くの一般参加者を集めることにつながり、結成以来、最も多かった。このことにより本会の目的である枚方宿の顕彰を図ることができ、歴史を愛する人が増えることで今後の本会に対する市民の関心も深まったと思える。当日入会の会員もあり、講演会は極めて有意義であった。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
48	特定非営利活動法人バイオマス北海道	北海道 札幌市	①菅井 貴子 ②前田 慎一 ③福岡 博史 ④藤山 淳史	①UHB気象キャスター ②有限会社ドリーム 代表取締役 ③日本データサービス株式会社 ④北海道大学	NPOバイオマス北海道 市民公開セミナー	平成27年10月17日
	講演内容			研修成果		
<p>基調講演は、気象予報士でテレビのお天気キャスターとしても著名な菅井貴子さんを迎え、「バイオマスの可能性と私たちにできること」をテーマに、バイオマスエネルギーを気象学と関連付け、バイオマスエネルギーの利点、問題点、将来性等を、わかりやすく、かみくだいた内容でご紹介いただいた。 また、「生ごみなど家庭ごみのエネルギー利用事例」に関する報告や、バイオマス利活用に関する新たな情報や知識を開示することで、聴講者のバイオマスエネルギーに対する意義や必要性に関する理解を深めることができた。このように、一般市民に対してもバイオマスについて広く周知し、普及・啓発活動の一環としての社会貢献に寄与した。</p>					<p>参加者数:66名 基調講演では、菅井貴子さんに気象学をからめてバイオマスエネルギーをご紹介いただいたことで、聴講者がバイオマスエネルギーをより身近に感じ、関心を深めることができた。 また、事例報告やパネルディスカッションを通じ、バイオマスエネルギーの利活用に関する新たな情報や知識を開示することで、聴講者のバイオマスエネルギーに対する意義や必要性に関する理解を深めることができた。このように、一般市民に対してもバイオマスについて広く周知し、普及・啓発活動の一環としての社会貢献に寄与した。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
49	第3回ふるさと高原山を愛する集い実行委員会	栃木県 矢板市	①船村 徹 ②えひめ 憲一 ③大門 弾 ④小川 三夫 ⑤成川 隆顕 ⑥イシワロンアとそだんべくらぶ	①作曲家 ②歌手 ③歌手 ④歌手 ⑤全国「山の国」協議会顧問 ⑥歌手	第3回ふるさと高原山を愛する集い実行委員会	平成27年10月25日
			講演内容			
			<p>船村徹先生が体調不良で欠席されたので、野中英夫さん、小川三夫さん、成川隆顕さん、見形和久会長により「山の日」を今後のまちづくりにどう活かすか?というテーマでパネルディスカッションを行いました。小川三夫さんからは、「山の日」じゃ一人一人が恩恵にあずかれるような山を対象にする日がいいと思う、成川隆顕さんからは「山の親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という趣旨に沿って、全国に広げていきたい」と述べられました。</p>		<p>参加者数:700名 見形和久会長は、「塩谷町では尚仁沢湧水をはじめとした「水」に育まれている。「水」を次世代に継承していけるように、山を守り、山の手入れをすることが大切であり、そういった「山の日」の運動を今後も展開していきたい」と総括しました。参加者からは「環境保全を考える機会は必要だ」という認識を新たにされるなど、環境保全の理解促進につながりました。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
50	青森県レクリエーション協会	青森県 青森市	①千葉 佑 ②工藤 茂人 ③須藤 勉	①千葉佑音楽・レクリエーション研究所所長 ②黒石レクリエーションクラブ会長 ③行丘レクリエーションクラブ会長	平成27年度青森県レクリエーション大会(記念講演・実技指導)	平成27年10月4日
			講演内容			
			<p>「歌は友達」というが、歌は人と人をつ結び付ける大きな、そして楽しい力を持っている。私は大学時代に教員を目指していたが、先輩教員のいる小さな小学校に行っったとき、小学生たちが最後に「さよなら」を輪唱で歌ってくれたことが感動の始まりであり、この体験が音楽教師としての原点となっている。皆さんも大きな声を出し、そして一緒に同時に息を吸い、一緒に発音することで一体感が生まれ、そして感動が生まれることをぜひ体験し、それを実践してほしい。心を開放し、子どもたちと一緒に喜んで、悲しんだり楽しんだりすることが、音楽教育をする前提となるのです。相手に伝えたいという意識を持って、伝えるための能力、技術を身につけてほしい。実技・みんなで輪唱・歌遊び・しゃり声をだそう 他</p> <p>私は、35年前にレクリエーションと出合いました。妻が保育をされていて、道が不案内な場所での研修会と一緒に行ってほしいと言われ参加しましたが、自分に合っていたのか妻よりも私がまっせました。仕事が知的障害者施設の指導員のため、歌やゲームなどが知的障害者に楽しく指導できないものかと仲間と研究したのが始まりです。仲間とともに、色々改良を重ねてきましたがまだまだ道半ばという感じです。知的障害者はものを理解するには時間が分かちますが、理解すると何回でもやりたいと駄々をこねるようになります。指導するには根気よく、我慢強く指導するとともに、出来たことをしっかりほめてやる必要があります。</p> <p>実技・化粧品・二人でほめ合おう・新聞パズル・指の運動等日本が高齢化社会といわれてから20年になろうとしています。高度成長期のレクリエーションは、若い人たちの交流を中心としたものでしたが、その後のベビーブーム時代は保母や学校教員のためのレクリエーションが中心となり、高齢者が増加するに従い、高齢者の生きがいを促進するレクリエーションが介護職場で必要とされる時代となりました。現在は体が元気でも、痴呆や徘徊など問題のある高齢者が社会問題となっています。最近レクリエーションが「脳トレ」に活用される場面が多くなりました。歌に合わせて体操をしたり、足踏みしながら計算をしたり、二人対面して手遊びをするなど、また、かつて自身が経験したことを回想し、楽しかったことを話し合うことなども効果的だということが分かってきました。まだまだ研究されていない部分がたくさんあるので、皆さんが現場において、様々なことを試してほしいものです。</p>		<p>レクリエーション技術の中には「ゲーム・ダンス・ソング」の基本的な要素がありますが、これまで青森県レクリエーション協会では、歌を指導する専門家を講師として呼ぶことはありませんでした。この度、助成金を活用して、全国的にレクソングの指導者として有名な講師を招聘できることになり、間接的にレクソングを勉強してきた者にとっては目からうろこが落ちたような感動を得ることができました。</p> <p>「ああこれが歌の持つ力なんだ」「レクリエーションでこんなに楽しんだ」「ぜひ自分のものになりたい」と多くの参加者が感激していました。参加者が感動するすばらしい講師を招聘でき、青森県のレクリエーション運動を盛り上げるきっかけとなることができたことが大きな成果です。ノーマライゼーションという言葉が使われるようになり、福祉分野でのレクリエーションが重要になってきました。最近では障害者のレクリエーションも見直され、身体や知的など、障害別にレクリエーションが研究されるようになりました。工藤氏の講演は、自身が知的障害者と関わってきて実践に基づいて築き上げてきたレクリエーション財の話であり、参加者はすぐに現場で活かせる実技を体験でき貴重な体験をしたと思います。</p> <p>これから障害者施設に勤務しようとする人には、知的障害者と身体障害者への対応の仕方や、レクリエーション財の活用法について学べたものと思います。</p> <p>参加者の中には、高齢者の福祉施設に勤務している職員が多くいます。職員は利用者の処遇の時間に追われながら、介護とともにレクリエーションの時間も担当しているとのことでした。</p> <p>「レクリエーションが重要なことは分かっているが、どうしたらよいかわからない」という声が多く聞かれるたびに、県レク協会としても、どうかしなければと考えてきました。</p> <p>このたび、高齢者レクリエーションに造詣の深い講師に指導を受けることができ、簡単なことでも継続的に支援していけば能力が向上することが理解できました。</p> <p>今回の研修で参加者は非常に参考になったと思います。今後は、県レク協会内部に、福祉レク部会をつくり、障害者と高齢者のレクをよ</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
51	長野県地域リーダー協議会	長野県 千曲市	①畦地 履正 ②市村 次夫 ③日野 正基	①(株)四方十ドラマ 社長 ②小布施堂 代表取締役 ③にいがたイナカレッジ事務局	地元発着型地域おこしに学ぶ講演会	平成27年12月15日
			講演内容			
			<p>基調講演1 テーマ「小布施のまちづくり」 講師：市村次夫氏(樹一市村酒造場・小布施堂代表取締役) 小布施町の町並み修景は保存+再利用である。小布施方式(実行委員会形式)で行い、事務局は民間が原則。行政は資金も口も出さない。新しいものと古いものの調和が重要(外はみんなのもの、中は自分たちのもの) イベントの展開：「アートイベント小布施系」「小布施セッション」「小布施見にマラソン」「音楽祭」など次々とイベントを展開した。若手経営者も台頭し、小布施ワインや小布施牛乳、スラックラインの寺、町図書テラノ(町図書館)なども生まれた。 外からの若者の活躍：日米学生会議や小布施若者会議など若者の活躍の場づくりをしている。</p> <p>基調講演2 テーマ「四十式いなかビジネス」 講師：畦地履正氏(株式会社四方十ドラマ社長) 四方十ドラマは平成6年に第3セクターとして発足し、平成17年に完全民営化した。まず足元を見直すことから始め、一次産業を基盤とした一点突破で「オールとおわめい」を目指してきた。 四方十に負担をかけないものづくりをコンセプトに地元発着型産業を進めてきた。地域おこし協力隊を積極的に受け入れるなど人材育成にも尽力。四方十の資源から生まれた商品が世の中を循環し、最後は地元に着地する産業を継続していくことが大切。</p>		<p>参加者数:32名 参加者は地域おこし協力隊員や行政職員、NPO団体が中心で、地域活動を実践している方が多かった。また、事前に自身の地域の魅力と課題を提出してもらっていたため、講演やパネルディスカッションでも講師陣がポイントをしぼりやすく、参加者からも有意義で充実した内容だったとアンケートで多くの回答がありました。地方創生についての質問に対して、最初から定住化を目指すよりも始めは拠点化を重視した方がよいという回答が印象に残りました。今回の研修会を開催したことで講師と参加者だけでなく、参加者同士のネットワークも広がり、今後の地域の発展に繋がる内容でした。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
52	高松第三行政区ふるさと地域協議会	岩手県 花巻市	池田 陽子	NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん 代表理事 理事長	ともに支え合い「あんしん」できる暮らしを築く	平成27年10月6日
	講演内容			研修成果		
<p>NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしんは、4つのコンセプトで活動をしている。</p> <p>①活力ある高齢者づくり ②高齢者の人格の尊重と自立支援 ③支え合う地域社会の形成 ④利用者から信頼される介護サービスの確立</p> <p>また、10年後も20年後も、幸せにくらし続けるために、平成21年に『あんしんビジョン』を策定した。</p> <p>現在、学びの場としての「生き活き塾」を中心に「御用聞き車」の運行など、地域の高齢者のあんしんを支える活動をおこなっている。「誰かがやらないと地域は変わらない」と思い、リスクを覚悟して今後も地域の助け合い活動を続けていきたい。</p>					<p>参加者数:45名</p> <p>今回の研修会のテーマでもある『ともに支え合い「あんしん」できる暮らしを築く』を実践していくには、地域住民のチカラだけではどうにもならず、行政をはじめとした関係機関との連携が求められる。研修会には地域住民はもとより、花巻市、花巻市社会福祉協議会、民生委員、JAいわて花巻など関係機関からも多くの参加者があったことは大きな成果であった。</p> <p>今後、「支え合いシステム」の構築のために、年内に高松第三行政区ふるさと地域協議会が関係機関に呼びかけて連携会議を開催し、具体的な支え合い活動を検討・実践していくことになった。</p>	
53	三世代生涯学習くしろリベルバンド	北海道 釧路市	杉本 峯夫	東京芸術大学 名誉教授	三世代生涯学習バンドの演奏指導公開講座	①平成27年10月10日 ②平成27年10月11日
	講演内容			研修成果		
<p>トランペット基礎講座:正しい音の出し方、息のコントロール、バランスの良い楽器の構え方、日々の練習の仕方など、初心者だけではなく、もう一度基礎を確認しより良い演奏を目指、初心者も教える立場にも学べる講座</p> <p>セッション 基礎講座:楽譜に書かれている記号やリズムについての吹き方等を実際のアンサンブル演奏を聴きながら学べる講座</p> <p>吹奏楽合奏講座:トランペットソロ、吹奏楽バンドの作品を中心に演奏や合奏のポイントを学ぶ講座</p>					<p>参加者数:86名</p> <p>講師の豊かな経験と専門知識が、広い年齢層の受講生それぞれにとって、有意義で即効性のあるものとなっていた。講習会は和やかで明るい雰囲気の中で進行され、それぞれの講座でもそれは一貫されており、若い年齢層には音楽の興味が見るからに増加する様子が何われ、成人層には継続して音楽に取り組んでいくという意欲が認められた。一流講師の豊かな経験と、厳しいプロ芸術家の体験が、地域音楽活動の意欲向上に大きな後押しになった。</p>	
54	魚沼文化自由大衆実行委員会	新潟県 魚沼市	①春野 恵子 ②一風亭 初月	①浪曲師 ②曲師	各地域コミュニティ協議会とともに文化芸術活動を行うことにより地域間交流を深め、連携することにより地域の活性化を図る	平成27年10月15日
	講演内容			研修成果		
<p>少子高齢化の進む過疎地域魚沼における住民の活動と、全国的にも少なくなり高齢化率が進む浪曲師・曲師を重ね合わせ、地域文化伝統の大切さ、文化伝承の大切さについての講演と、ニューヨークによる英語浪曲やベルリン公演などチャレンジする姿勢についてと今現在行っているクラウドファンディングによる応援団づくりの実践について講演いただいた。地域課題の解消のための連携また地域に残る人情、ふるさとづくり、おもてなしの心を活かした取り組みについて「神田松五郎の一座」を例に上演、伝統の大切さ等について「両国夫婦花火」を曲師の三味線に合わせたリズム感あふれる名調子を披露していただいた。</p>					<p>参加者数:100名</p> <p>高齢化の進む地域コミュニティ協議会の活動における、連携の方策・挑戦の姿勢。故郷の魅力づくりなど、浪曲協会の現状と重ね合わせた判りやすい公演により、あたらしい視点での活動の在り方を学ぶことができた。特に、あたらしいことにチャレンジする事、資金を集めて、応援団を集めて夢(計画)を実現することの重要性、具体策については普段耳にすることの無い手立てを学びました。本公演をもとに複数の地域コミュニティ協議会の連携、外部からの意見による故郷の再発見、新たに地域団体以外との連携による交流の活性化の可能性が芽生えた。これらの公演をきっかけに新たな連携と交流・新たなイベントの取り組みの始まりを予感させる。</p>	
55	特定非営利活動法人桜が丘ひぶなクラブ	北海道 釧路市	高林 実結樹	NPO法人認知症予防ネット理事長	認知症予防ゲーム(スリーA)講演会&リーダー養成講座	①平成27年10月17日 ②平成27年10月18日
	講演内容			研修成果		
<p>認知症予防ゲーム(スリーA)講演会は、あかるく、あたまを使って、あきらめない、3つの頭文字を「あ」ととって、スリーAと名付けられました。スリーAをモットーに非常に効果の高い認知症予防の成り立ち、脳機能向上のデータ検証を基に1つ1つのゲーム(1.指を使って数えよう 2.グッパ一体操 3.お玉玉回し等)が組み合わせられて、20のゲームが出来上がっていった。現在では、全国にこどもならず、国外(韓国など)にも広がっています。</p> <p>1、優しさのシャワーで相手を癒すゲーム進行の哲学 2、生活の質を高める意欲と自律の援助方法 3、ゲームや頭の体操で脳機能を上昇させる方法が、1つ1つのゲームの小さな所まで組み込まれていること</p> <p>以上の3項目を柱として、組み込まれた20のゲームはゲームその1では、ウォーミングアップの指と腕の運動、ゲームその2では、スキップを取り入れた上半身の運動、ゲーム3では、机上での頭の体操、ゲーム4では、集団ゲームなどの話をされ、ゲーム1のいくつかを体験し、会場では和やかな笑いが起こった講演会になりました。</p>					<p>参加者数:41名</p> <p>認知症予防ゲーム(スリーA)のリーダー養成講座は17日と18日2日間にわたって実施しました。参加者は、介護予防教室にたずさわっている方、町内会、老人クラブ、介護施設、市役所などの保健師さん、社会福祉協議会職員の方々、サークル等で活躍している方など皆さんが参加してくれました。参加者の中から認知症予防ゲーム(スリーA)のリーダー養成講座に参加されたことは、大きな成果となります。又、講演会だけでも、帰ってから地域施設、サークル、家庭の中でも楽しく、役立てそうです。との感想が多くありました。研修の中で認知症予防ゲーム(スリーA)は、毎週1回(5種目)3ヶ月実施することで、健康な方には、転ばぬ先の杖、やや不安な方には、発症の先送り、発症した方には、悪化予防を理解したうえで脳活性化ゲーム&ゲームの中の優しさ&笑いの相乗効果で予防効果抜群を学び特に、認知症予防ゲーム(スリーA)で学ばれたことが、地域に帰ってからも、すぐに役立てる出来る研修になりました。認知症予防ゲーム(スリーA)が地域に拡大することで、健康寿命を延ばし、医療費の削減に繋がる成果が期待できる。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
56	せたなグリーンエネルギー研究会	北海道 せたな町	①池田 隆司 ②浦野 慎一 ③藤本 和徳	①北海道大学 名誉教授 地球物理 ②北海道大学 名誉教授 農業物理 ③北海道立地質研究所 前所長 地熱温泉	せたなそして北海道の自然・環境・産業を考える 自然エネルギーセミナー&ワークショップ	平成27年10月31日
	講演内容			研修成果		
藤本講師の案内で、平田内温泉泉源・温泉熱利用アツピ中間育成施設・海洋深層水供給施設等を現地見学しつつ、地熱・温泉等の利用の現状と課題について研修した。池田講師は「檜山地域の地熱・温泉とその利活用」について、地熱と温泉の基礎的な理解から、檜山地域各温泉と遊楽部岳のドーム構造との関係まで具体的に講演され、現地見学の理解を深めるものとなった。浦野講師は「雪氷冷熱利用のエネルギー的意義と今後の普及可能性」について、農作物の保存を例にしながら、その有効性について話された。上記3名に酪農学園大学・高橋圭二教授、当研究会長・内田尊之を加えてパネルディスカッションが行われた。個人や家族農業レベルでの自然エネルギー活用や自治体や協同組合で取り組むべきエネルギーの有効活用などをさまざまな議論が深められた。			参加者数:55名 藤本講師の案内で、平田内温泉泉源・温泉熱利用アツピ中間育成施設・海洋深層水供給施設等を現地見学しつつ、地熱・温泉等の利用の現状と課題について研修した。池田講師は「檜山地域の地熱・温泉とその利活用」について、地熱と温泉の基礎的な理解から、檜山地域各温泉と遊楽部岳のドーム構造との関係まで具体的に講演され、現地見学の理解を深めるものとなった。浦野講師は「雪氷冷熱利用のエネルギー的意義と今後の普及可能性」について、農作物の保存を例にしながら、その有効性について話された。上記3名に酪農学園大学・高橋圭二教授、当研究会長・内田尊之を加えてパネルディスカッションが行われた。個人や家族農業レベルでの自然エネルギー活用や自治体や協同組合で取り組むべきエネルギーの有効活用などをさまざまな議論が深められた。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
57	特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房	栃木県 宇都宮市	木村 真樹	コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事	『お金の地産池消白書2014』を読む会@栃木	平成27年12月10日
	講演内容			研修成果		
○金融機関の預貸率は低下していると言われていたが、地域課題解決のためのお金はある。白書で取り上げた西武信金の預貸率は7割を超えている。 ○人口減少は同時に法人数減少も意味する。一方でNPO法人や一般社団法人は例外的に増え続けている。つまりNPOを媒介に、地域でお金を回すチャンスがきている。 ○「NPOに融資を」と言ってもその社会性については金融機関では目利きができないので、NPO支援組織と一緒に審査する。 ○行政が呼びかけると、金融機関は動きやすい。埼玉県では金融機関職員研修を県費で行っている。 ○「就労支援の利用者ゼロを目指す」というNPO独特の考え方を金融機関職員は当初理解できなかった。			参加者数:20名 当日は金融機関、行政、NPO支援機関、大学などから幅広い参加があった。NPOにとって融資は資金調達の手法としては決してポピュラーではないと認識されていたが、持続可能な事業活動を進めるうえでは有効なものであることがわかった。また、参加者同士のグループディスカッションを通して、栃木県内でも融資を活用するNPOが着実に増えていることもわかった。 今回取り上げた白書では「金融機関にとってNPOは有力な融資先である」ことがデータを用いて示されている。これを契機にNPOや地元金融機関に対して、当法人ではこうした事実を幅広く訴えかけ、融資を活用した社会課題の解決が栃木県内で広がるよう取組を進めたい。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
58	支え合いネットワークなんぶ	青森県 南部町	①渡邊 洋一 ②苫米地 義之	①食と農と福祉の連携検討委員会 座長 ②株式会社 アグリの里おいらせ 代表取締役	今、食と農と福祉の連携を学ぶセミナーin南部町	平成27年11月11日
	講演内容			研修成果		
講演の第1部と事例紹介を含むパネルディスカッションの2部構成で開催。講演では、渡邊洋一氏が「なぜ今、食と農と福祉の連携なのか」と題して話され、「首都圏の介護問題の解決には地方とのつながりが重要」「食と農と福祉の連携が地方創生のカギともなり得る」など今後の社会状況や人口変動もふまえての課題から地域としての取り組みの展望について講演されました。その後、苫米地氏から観光農園「アグリの里おいらせ」の事例紹介が行われ、経営の視点から事業立ち上げから現在までの実践事例を紹介されました。パネルディスカッションでは、コーディネーターに渡邊氏、パネリストに苫米地氏、そして南部町長工藤祐直氏を迎え、官民それぞれの立場からの連携のあり方、今後の事業展望など話されました。			参加者数:29名 第一に食、農、福祉のそれぞれの関係者が一つの研修に参加したことが縦断的かつ横断的なつながりとなるのが今後、大いに期待できる成果といえます。また、客観的な視点からの地方での事業展開についておいらせ町を拠点に活動される苫米地氏から南部町の今後について意見をいただいたことは、地元参加者にとって大変参考になりました。南部町長が行政の立場から、連携の可能性や町としての事業展望などを話され、福祉施設や農協などの関係機関の参加者と行政関係者で町としての方向性を共有できたことは成果として大きい。そして、町外参加者にとっても、経営者、行政それぞれの視点からの内容で、南部町以外でも活用できるものであったことで、今後、各地域でこの連携のつながり強化に結びつくとはいえないかと期待されます。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
59	アニメーション七戸	青森県 七戸町	①大和田 雅洋 ②啼鵬 ③牛渡 克之	①大学准教授 ②音楽家 ③大学准教授	Out of the Standard 音楽塾	平成27年11月28日
	講演内容			研修成果		
音楽塾では、はじめに啼鵬氏による「バンドネオンのお話」として、バンドネオンとは何なのかという説明と共に、バンドネオンの鍵盤を紙に写したプリントを用いた運指体験を行った。特に、現在はバンドネオンが新しく作られておらず、古いものを探すしかないという話には会場から「へえー！」と声が上がっていた。その後、大和田氏、牛渡氏も交えて、楽器の紹介を行いながら、啼鵬氏が自身で作曲したものを始め、様々な曲を演奏していただいた。			参加者数:248名 音楽塾を開催したことによって、音楽経験者でも普段あまり触れることのない「バンドネオン」に対する興味や理解が深まった。特に、複雑なバンドネオンの運指を啼鵬氏の指導のもとで体験し、その上で演奏を聴いたことにより、参加者の関心の幅が広がったものと思われる。また、小さい子供や学生の参加も多くみられ、町内の音楽活動に対する裾野が広がったものと思われる。さらに、町内で吹奏楽部を指導している先生方や、町の吹奏楽団体で活動している方々も多数参加していたので、高度な技術指導・交流の場となった。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
60	NPO法人 天満浦百人会	三重県 尾鷲市	①菱川 勢一 ②上野 崇 ③宮本 正樹	①武蔵野美術大学基礎デザイン学科教授 ②Drawing&Manual(株)プロデューサー ③Drawing&Manual(株)スタッフ	映像のチカラ/応援してくれる人がある!	平成27年11月7日
	講演内容			研修成果		
1. 天満浦百人会/理事長より挨拶 2. 「尾鷲大漁旗職人」ムービー上映 3. 講師「DRAWING AND MANUAL」の皆様より自己紹介後、フリートーク ・尾鷲の印象、および、地域について ・「尾鷲大漁旗職人」ムービーについて ・3分の映像の意味について ・手掛けたCM、大河ドラマ「八重の桜」などの裏話を通じ、それぞれの地域との関わりについて ・映像が及ぼす地域の人々への影響 ・質疑応答/大漁旗について、映像について、地域のPR方法、地域の気づき、等			参加者数:50名 準備段階から、「大漁旗」を通じ多くの人々がつながり、想定外の大きなイベントになった。尾鷲にある120ほどの船に旗を掲げる呼びかけの協力、大漁旗展に合わせた地域スーパーマーケットの売出し、開催地区で大漁旗を掲げることによる公共施設等からの参加の声。何よりも、尾鷲中からの大漁旗の提供は市民に広く周知できたことを証明している。何年もタンスに眠っていた大漁旗が目の目を浴びることができたと、過去の華やかな時代を思い浮かべ、人々が昔話で盛り上がっていた。そんな中、講師の皆さんが地域の素晴らしさを浮き彫りにし、地元の人々に気付きを与えた効果は大きい。今回、大漁旗に対する人々の想いが地域に一体感をもたらした。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
61	清里まちづくり協議会	群馬県前橋市	稲葉 典子	オープンガーデンオブ信州 代表	オープンガーデン講座	平成28年2月8日
	講演内容			研修成果		
講師の稲葉先生が代表を務める「オープンガーデンオブ信州」は立ち上げから12年が経過し、長野県を中心に現在は193団体が登録している。その活動を紹介する中で、オープンガーデンの基本的考え方から庭づくりの方法について、庭のレイアウト方法や草花の選び方など丁寧に説明があった。また、パワーポイントを使い実際の庭を写真で見ながら植物の色彩計画や効果的な配置、管理方法について紹介。人の庭をまねることからスタートし、庭を見せ合うことの楽しさを見つけてほしいとのことだった。			参加者数:92名 日頃からまちづくり活動で地区を花でいっぱいにしようと活動している部会が開催する講座ということで、花に対する関心が高い方が多く参加していただいた。内容は専門的なものだったが、参加者アンケートからは満足していただいたようだった。また、地区内だけでなく、市外や他地区でオープンガーデン活動をしている団体にも参加を呼びかけたところ、3地区から参加していただいた。講師のはからいで、他地区団体の活動状況を聞くことができ、講座を通して地域間交流ができたことは思いがけない成果だった。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
62	愛ぶん塾	長野県 松本市	①出井 博文 ②八田 桂子 ③今村 淑子 ④古根 静子 ⑤時田 岩江	①弁護士 ②長野県認知症介護指導者 ③介護福祉士・認知症ケア専門士 ④看護師・介護支援専門員 ⑤介護福祉士会理事・松本短期大学講師	高齢化社会における法律相談	平成27年11月28日
	講演内容			研修成果		
①「高齢化社会における法律相談」 近年の特殊詐欺の方法は甥、甥の上司、警察官等複数人で装い、それらからのお金を落とした等と言われ、数百万、数千万の金銭を要求されるもので、実際に金銭を受け取る「受け子」が警察の騙された作戦により逮捕されてもその首謀者は逮捕されないよう「受け子」を少年に依頼するなど巧妙な仕組みをとる。その結果高齢者だけではなく受け子となった少年も被害者となっている実態を説明し被害に遭わないよう注意喚起と同時に財産管理に関する成年後見制度や相続についてを学んだ。 ②「地域の中で認知症家族と共に生きる」 認知症の初期症状の説明と病状進行状態。また家族による高齢者虐待の実態について説明され、実際家族が認知症を発症した際の初期対応と地域住民として何ができるかを人形劇団「はつとつと」の認知症啓発寸劇で、涙や笑を織り交ぜながら、わかりやすい内容で行われた。 悲劇を未然に防ぐためには、やはり家族、地域の方による早期発見の大切さであることを学んだ。			参加者数:19名 ①「高齢化社会における法律相談」 地元の弁護士さんのお話により、実際身近にあった事例だけに自分だけは騙されない思っている何が起こるかかわからないので、改めて注意したいと皆で話しました。 また何となくわかっているような成年後見制度も再度内容について確認することが出来ました。 ②「地域の中で認知症家族と共に生きる」 人形劇を使ってわかりやすかった。 認知症について改めて学ぶことができ、初期対応で違うことを改めて知ることができ、介護者としては認知症という病気も一人で抱え込まないで相談先の選択肢があることで安心できた。また地域住民としては普段隣近所であつてもどこか遠慮がちになってしまつたのがこれからは積極的に声をかけていこうという声があつました。 認知症高齢者や近所つきあいについて、新たため意識していこうと思いが至りました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
63	えひめ地域づくり研究会	愛媛県 松山市	①図司 直也 ②藤巻 光加 ③本多 正彦 ④山本 幸裕	①法政大学現代福祉学部准教授 ②まるふ農園 おかみ ③まちづくり学校双海人 ④山本牧場	えひめ地域づくり研究会年次フォーラム2016	平成27年1月23日
	講演内容			研修成果		
第一部では図司先生から「地域再生のプロセス—現状への気づきから再生への道筋—」と題して、農山漁村に関心を持つ若者世代の「共感」を活かした地域再生の方法について基調講演を頂きました。第二部のパネルディスカッションでは、「人口減少時代の地域づくり—再生のために何を指すのか—」と題して、少子高齢化で過疎が進んでいる現場で実際に活動されている愛媛県内の3名の実践者に登壇頂き、それぞれから各地域で活動されている実践事例の発表や図司先生との地域再生に向けた課題等について議論を深めました。			参加者数:65名 図司先生は、農山漁村で兼業や非農家が増加したため地域資源への関わりが弱まり、地域に愛着を持ちにくい環境になったと指摘。集落ごとに住民全体が危機意識を共有することが重要であり、地域再生を自分ごとと捉える必要があることが理解できました。また、それからの農山漁村の地域づくりには、若者が地域の歴史に寄り添い、新たな価値を乗せて地域産品につなげていくことが重要であることを学びました。一方、パネルディスカッションでは、発表者が各地域での活動状況をどう活かしながら、どのように地域再生に向けた取り組みを加速すべきかを具体的に検証。フォーラム参加者自身がそれぞれの地域において地域活性化に向けた取り組みを行う際の一助となりました。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
64	絵本を読み聞かせの会 おむすびころりん	宮城県 柴田町	柳田 邦男	ノンフィクション作家・評論家	大人の再生、子どもの成長～絵本は親子を変え、地域を変える～	平成27年12月5日
	講演内容			研修成果		
子どもは感性が鋭く、大切なことは全身で感じ取っているが、言葉では表現できない。子どもは物語に自分を重ねて考える。絵本は「子どもの心を動かす魔法」である。『みんな、絵本から』を読んだお母さんが、テレビを切ると乳児の笑顔が輝くと気付いた。『わすれられないおくりもの』を読んだ子が、死別の悲しみをしっかりと受け止めた。『ヤクサーとライオン勇気』では、「戦わない」という真の勇気への気づきがあった等の紹介があった。				参加者数:157名 絵本の持つ大きな力を、改めて感じさせられた講演だった。子どもは絵本を通して多くのことを学び成長していく。子どもをメディア漬けにしないためには、幼い時からの絵本の読み聞かせが大切であり、私たちの読み聞かせ活動は重要な意味があると感じた。これからは、大人が絵本の持つ大きな力に気付くよう、私たちが多くの方に絵本の素晴らしさを語っていきたいと思う		
65	女性の社会生活活動部 フルード	福井県 坂井市	中野 満知子	オフィス「想」ネットワーク主宰 自尊心感情回復ガイド アサーティブトレーナー	女性のためのエンパワメント講座	平成27年11月29日
	講演内容			研修成果		
当初、福井県社会福祉センターで開催を予定しておりましたが、助成金の決定を待つ間に予約が埋まり、急きよ、会場をアオッサに変更して実施しました。				参加者数:12名 自分を見つめ直し、その思いを吐き出すことで、ココロとカラダが楽になることを実感することができました。自己紹介の時にはそれぞれ緊張もありましたが、ワークショップを通すことで、肩の力が抜け、表情が明るくなる変化が見られました。初めて顔を合やす仲間だからこそ話せることも多く、それぞれの心が徐々に開かれていくことを目の当たりにしました。「新しい出会いに感謝」「またこんな講座をしてほしい」「夢に向かってまずはボランティアからはじめたい」との声をいただきました。ここで得た自己信頼が一步を踏み出す力となり、さらには地域づくりにもつながることと思います。		
66	草木谷を守る会	秋田県 湯上市	①天野 荘平 ②五十嵐 経 ③佐藤 ミチヨ	①男鹿市菅江真澄研究会 会長 ②総務省地域力創造アドバイザー ③男鹿半島案内ボランティアの会 会長	三湖伝説フォーラム	平成27年11月15日
	講演内容			研修成果		
秋田県には、十和田湖、田沢湖、八郎潟、と三つの大きな湖がある。この湖を舞台に、龍神・八郎太郎を主人公とした「三湖伝説」を3名の講師を招いてフォーラムを開催した。佐藤ミチヨ氏は、昔から語り継がれる、八郎太郎伝説をぬくもりある。秋田弁での昔語り五十嵐 経氏は、八郎太郎の出生地、南祖坊との戦いなど、ユーモアを交えながら各地に残る伝説をわかりやすく紹介。天野 荘平氏は、自ら歩いて探した八郎湖岸に今も残る八郎太郎の痕跡を紹介				参加者数:82名 今回のフォーラムには、「三湖伝説」の知名度が低いにもかかわらず、郷土文化・神話伝説・歴史・地域活性などに興味のある方が、地元のみならず遠方からも参加された。各講師の普段聞くことのできない有意義な解説や初めて聞くような事柄に耳を傾けることで、新たな知識や発見を得るとともに、「三湖伝説」に好奇心を持っていただけたと考えている。また、「三湖伝説」をメインとしたフォーラムは他に例をみない試みであったと思うが、参加者も多く、最高のアプローチとなった。今後も、「三湖伝説」を積極的に紹介する活動の機会をつくり、地域住民をはじめ広いエリアに発信することで、更なる地域づくりのきっかけを作り、地域の活性につなげていきたい。		
67	特定非営利活動法人コミュニケーション	兵庫県 神戸市	①福野 泰介 ②関 治之 ③牧 慎太郎	①株式会社iig.jp代表 ②一般社団法人コード・フォー・ジャパン代表理事 ③総務省地域力創造アドバイザー 独立行政法人水資源機構理事	「IT×移住」	平成27年11月7日
	講演内容			研修成果		
午前は、株式会社iig.jp代表の福野泰介さんから「地方創生×オープンガバメント最前線」をテーマに、鯖江市の取り組みを紹介。神戸市との比較などを通じて、オープンデータを活用した地域活性化について講演いただいた。午後は、一般社団法人Code for JAPAN代表理事の関 治之さん、総務省地域力創造アドバイザーの牧 慎太郎さんを中心に、「IT×移住」についての議論を行った。実際に鯖江市でゆるい移住を進める若新雄純さん、地元・多可町で農村型のシェアオフィスづくりを進める足立直之さんから、具体的な事例報告をいただくことにより、より深まった議論を展開することができた。移住を応援する側にとって、人を呼び込んでいくために、どんなことに気をつけられたいかについて、非常に役立つ、ヒント、キーワードをいくつも出していただいた。				参加者数:150名 これまで、ITエンジニアは、地域のことにかかわる機会があまりなかった。いまでは、鯖江市が積極的に取り組んできたオープンデータの取り組みがきっかけになって、ITエンジニアが地域のことに関心を持つようになった。そのことを来場したITエンジニアをはじめ、来場者にも知ってもらうことができた。ITの進展にもなって、わざわざ地域で仕事をつくらなくても、移住というものが身近になっている。これまでのように、いろいろな条件をつけて移住者を募集するよりも、鯖江がとくんでいる「ゆるい移住」のように、地域のつながりを意識して、仕事づくりは関与しないぐらいの感覚のほうが移住施策はうまくいかもしれないなど、ITと移住の関係について再認識を深めることができた。		
68	阿木区長会	岐阜県 中津川市	伴 信太郎	名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学分野教授	超高齢社会における地域医療・介護のあり方と人材育成	平成27年11月25日
	講演内容			研修成果		
阿木地域は高齢化率37%、WHO定義では超高齢社会となる。今後ますます人口が減少していく状況。看取りをどこで迎えるか・・・自宅・病院・施設、60年前は80%が自宅だったが現在は12%に減少、家族力の低下が理由の一つ。健康を害する理由は体質、環境的な要因(衛生・生活習慣・ストレス)がある。望ましい医療のバランスは、地域保健・医療・福祉・介護である。職種人材を地域で確保するには地元人を教育施設に送る、実習研修を地元で受ける、子どもに体験させ興味を持たせる等、地域力を育て、地域で戦略を立て人材育成する。				参加者数:113名 医療機関が国保阿木診療所(週2日)だけの地域にとって、医師派遣、診療所の充実が重要事項である。予想を超える今回の出席数は地域住民の切実な思いの現れである。施設充実・医師確保の必要性以上に、健康で生活するための自己管理によって「ごきげんに年を重ねる」ことが幸せにつながることを講義から学び、健康意識を高めることができた。また、講演会には現在の診療所医師2名の参加があり、地域の方との交流を持つ事ができ、たいへん有意義な講演であった。		
まとめ ・健康について心と身体は一体(心身一如) ・健康障害は体質(遺伝要因)と環境要因による ・ごきげんに年を重ねる秘訣は食事・運動・酒タバコ ・地域医療のキーワードは「総合診療医」「多職種連携」「住民参加」						

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
69	NPO法人 Annaka ひだまり マルシェ	群馬県 安中市	永沢 映	NPO法人コミュニティビジネ スサポートセンター	コミュニティビジネスによる地域課題解決	平成28年1月30日
	講演内容 コミュニティビジネスとは、市民が主体となり、地域課題を事業の手法で解決するものであり、高齢化が進む今、高齢者の健康寿命をより高めるためのモチベーションアップとしても活用が期待できる。何よりも大切なのは、市民が各地域でお金を稼ぎ、そしてその地域でお金を使うという循環を生み出すことである。				研修成果 参加者数:25名 安中市のまちづくりに関心をもつ方が25名集まったということ。これを一歩とし、今後も月1回を目標に座談会を重ねていく予定である。 NPOとしての活動の方向性を改めて考える時期になっており、より発展的な活動ができるよう、私たち自身も決意を新たにすることができた。	
70	北海道山岳遭 難防止対策協 議会	北海道 小樽市	①八木原 園明 ②新谷 暁生	①公益財団法人 日本山 岳協会 会長 ②ニセコ雪崩調査所 所長	「安全登山シンポジウム」山岳遭難を防止するための安全登山を考える	平成27年12月1日
	講演内容 初めに道警山岳救助対策官西村氏から「北海道山岳遭難の実態」についてスライドを使用して説明。登山の危険性を理解し、天候、技術の過信、体力、体調不良、装備や登山計画に十分な注意が必要であることや遭難事故の実態についてグラフや数値で説明があった。続いて日本山岳協会会長の八木原氏からは、自宅から180円の電車で登れる谷川岳での岩登り経験と、ヒマラヤ登山25年間の貴重な体験、特にサガルマータ(エベレスト)登攀の緊迫した臨場感溢れる話や「植村直己物語」エベレスト撮影隊でのエピソード等興味深い講演であった。最後にニセコ雪崩調査所所長の新谷氏からは「雪崩事故の最も多いニセコで、スキーヤーが自由に安全に滑って貰うためのルールが「ニセコルール」の原点。雪の降り方(風向き)等状況判断が大切。スキーヤーには登山経験者が極めて少ない。バックカントリーにはビーコンの携帯を勧める。				研修成果 参加者数:320名 北海道は本格的な雪の季節を迎える。登山愛好者やスキーヤーにとって格好の季節。北海道における山岳遭難事故が年々増加傾向にあり、原因別では道迷いと転倒が半数、年代別では40代から70代が7割を占める。(道警調べ) コース外スキーによる遭難事故も増えている。登山、スキーの技術は勿論のこと知識や体力も遭難防止の上で重要なキーワードとなる。特に遭難事故は登山者の無知、無理が原因となる場合が多い。本シンポジウムではヒマラヤ経験25年、日本山岳協会会長の八木原氏の貴重な体験や「植村直己物語」「エベレスト神々の山嶺」の撮影時のエピソードを交えた興味深い講演と雪崩事故防止のための「ニセコルール」を作ったニセコ雪崩調査所所長の新谷氏を迎えたいりな講演を聞くことが出来た。会場からは事故防止策についての具体的な取組方法等講師の感想を求めるなど、今後の事故防止に繋がる意見交換がなされた。また今回初めて聴覚障害のある人2名と手話通訳者2名の参加があり、大変意義深い3時間25分となった	
71	ゆめがたりパパ の会	愛媛県 松山市	①亀山 達矢 ②中川 敦子	①絵本作家 ②絵本作家	tupera tuperaさんによる絵本の読み聞かせと工作	平成27年11月1日
	講演内容 tupera tuperaさんによる今日のように活躍されるようになるまでの色々なエピソードを含めた講話とご自分の著書の絵本に参加して頂いた親子と交えた読み聞かせと、スタッフも含めた参加者全員での工作をまず個々に行い、最終的に全員の作品を一つの物に合体させるという事を行いました。				研修成果 参加者数:126名 著者にしかわからない絵本作品完成までの気持ちを含めたエピソードを聞いた上でご本人による絵本の読み聞かせを参加者全員が貴重な体験ができ、今までに読み聞かせをしたことなかったお父さんたちがこれからは「読み聞かせをしてみたい」と目覚めてくれた事が大きい。そして珍しい工作の楽しさを全員が生まれて初めてしかも家族で味わっただけでなく、最後に一つになるという達成感も味わうことができました。また、男女共同参画にもなりました。	
72	宇和島市生活 文化若者塾「拓 己塾」	愛媛県 宇和島市	紅谷 浩之	オレンジホームケアクリ ニック 代表	これからの地域福祉のあり方を考える	平成27年12月19 日
	講演内容 招聘講師による講演に先立ち、愛ほっとステーションの久徳氏から地域包括ケアシステムの構築に向けた、医療や介護を取り巻く状況や、宇和島市の今後の将来予測といった基礎的な学習をしたのち、講師による福井県福井市で取り組んでいる地域在宅医療の実践による事例紹介及び、参加者を4班に分けたグループワークを行った。				研修成果 参加者数:35名 講師による講演は、地域医療現場の最前線にいる生の話が聞くことができ、参加者にとってたいへん有意義な時間を過ごすことができた。特に、医療・福祉業務従事者は、もっとまちづくりの視点で現場に出なければ、これからの地域包括ケアシステムの構築は難しく、特にこれから10年で後期高齢者の市民の占める割合がおよそ2倍となる本市にとっては喫緊の課題であることを認識した。	
73	(特)自然回復 を試みる会・ピ オトブ 孟子	和歌山県 海南市	鷲谷 いづみ	中央大学人間総合理工学 科 教授 専門分野 保全 生態学	日本ユネスコ協会連盟プロジェクト未来遺産	平成28年2月28日
	講演内容 里地里山の生物多様性保全に向け、環境省で指定された全国重要里地里山についての説明と、和歌山県レッドデータブック絶滅危惧Ⅰ類の昆虫類の選定理由が里地環境の破壊によるものであることから、身近な里山の保全の重要性を説明されました。また東京で始まっている市民レベルでのチョウのモニタリング等を紹介し、里山の生き物の調査を通じて保全の重要性を浸透させてゆく重要性について説明されました。				研修成果 参加者数:320名 和歌山県では、平成28年3月末に県生物多様性保全戦略が施行されようとしています。それに際し、県民に身近な里地里山の生物多様性の保全に向け、どんな取り組みや関わりをしてゆけば良いかについて、しっかりと認識し、勉強する絶好の機会になりました。	
74	地域活動応援 チームえんのわ	長野県 塩尻市	加藤 彰子	岡山NPOセンター 事務 支援センター所長	地域を元気にするNPOには事務局力が必須！ NPO事務力アップセミナー・事務力初級検定	平成27年12月12 日
	講演内容 岡山NPOセンターでは、多くのNPOを対象に事務支援センターで会計や庶務・労務管理、決算処理を業務支援している。センター設立当時よりセンター長を務めている加藤さんより、NPOならではの事務と所轄庁などへの手続きについて講義していただいた。 NPOの活動をしている人は「想い」がある分、活動の現場では熱心だが、それを支える事務部分を後回しにする傾向がある。活動を支え、発展させていくためにはなくてはならないのが事務であり、諸手続きや労務・会計処理。これからマイナンバーが導入され、きちんと事務を積み重ねていくことが必須となる。NPO法人は他の法人格と比較して、所轄庁が県となり情報公開の義務があるため、信頼感がある。 講義①「事務局力と情報発信について」 講義②「定款の読み方、所轄庁手続き、法務局手続き」 講義③「実務的な雇用に関する事務と給与計算、NPO会計の日々の会計業務から決算まで」 膨大な資料をもとに、具体的な事例も交えながらの講義となり、経験値がものをいうことを実感。				研修成果 参加者数:20名 受講者は、NPOの事務経験が10年以上という経験者から、これからNPO法人化を目指す人、NPOに興味のある人、そして行政職員など多様だった。一日ではとても理解、習得不可能と思われる奥深い事務の、それぞれ必要な部分を学べた。特に、講師の経験に基づく事例や失敗談には、興味深かった。講義終了後は事務力初級検定。参加者は、学んだことを活かして問題に取り組んでいた。検定修了後は自己採点をしながらの詳しい解説が行われ、講義で話すことが出来なかった内容にもあった。 参加者は、事務の奥深さや、活動は楽しいけれど事務が大事だという事を改めて認識した様子だった。とてもためになった、さらに深めて学びたいという声もあった。 後日、採点された答案用紙とともに合格証書が岡山県npoセンターより送られてきた。12名受験中11名が合格、わずか合格ラインに1点足りずに1名が不合格となった。詳しい解説について、今後もフォローアップすると、講師の加藤さんよりいただいております、事務局としても嬉しかった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
75	特定非営利活動法人 和光まちづくりNPOセンター	埼玉県 和光市	藤倉 潤一郎	内閣官房地域活性化伝道師 法政大学大学院「コミュニティビジネス論」兼任講師 株式会社 地域協働推進機構 代表取締役	まちづくり講演会2016「社会的企業による地域経営の革新」	平成28年1月30日
	講演内容				研修成果	
<p>社会的企業は、現代版『家守事業』＝ソーシャル・ネットワークキングでビジネスコミュニティを基盤とする相互扶助により社会的関係資本を形成しようというもの。社会的企業の一形態として、非営利型株式会社がある。社会的企業の役割は、制度や評価、技術を活用して社会資源の組替えを行い、欲求・課題を充足・解決に導くことである。地域の数だけ、そして社会資源の組替え次第で、無数のビジネスの『タネ』がある。今後は、SROI・SIBを取入れたコミュニティカルテによる地域社会課題の見える化を図ることで、民間資金を活用しながら予防型の事業を実施していくことにより、公共サービス分野のイノベーションが活力ある地域社会を実現するものと期待される。</p>				<p>参加者数:35名 講師より提供された資料(パワーポイント)70シートのうち、要となる20シートを当日配布し、講演会後、当法人のホームページに全シートアップした。また、ビデオに収録した講演内容は、同様にHPに掲載しネットに配信した。多くの人に周知、活用されるものと期待する。 当法人では2年前から埼玉県ウーマノミクス事業に企画応募した経緯もあり、女性やシニアの起業、自立を応援したいと考えている。和光市や周辺の練馬・板橋区そして県南西部6市1町から川越へとネットワークキングを進め、社会的企業の視座を実践していくことで今回の講演で得たものを生かしていく。</p>		
76	まち川づくりサポートセンター	北海道 滝川市	角田 尚子	ERIC 国際理解教育センター 理事代表	体験型環境教育の指導者研修会	①平成28年2月13日 ②平成28年2月14日
	講演内容				研修成果	
<p>体験型環境教育において「学ぶ」ということは、学習の主体者が自ら気づき、意欲的に学習行動を行うことである。指導者が、結果を知識として一方的に教える学習や受け身の学習では、学びの連続性は図れない。学習者が学んだことを応用し、可能性を持った学びを実現するための指導の在り方について各々が考察し交流した。活動を行う際には「ねらい・プログラムの流れ・カリキュラムの構造」が大事である。ねらいを達成するためには、指導者として教育目標(培いたい価値観や育みたい能力)を持ち、学習者が自ら発見できるように関わり方が大事である。指導者の言葉一つにも意味がある。特に、子供に対する指導では、動作化・実物・実話・実地・実感などの体験を取り入れることが有効である。活動の終わりには、参加者も指導者も活動を振り返ることで、主体的に学び続ける持続可能な学びになる。</p>				<p>参加者数:12名 参加者の年齢層が29歳から74歳まで、職種も、教職員、嘱託職員、地域でボランティア活動をしている方々で、指導者層の幅を広げることができた。実際の指導では、結論ありきの指導ではなく「どのように考えさせるか」が大切であること、そのためには、「起承転結の流れのあるプログラム」を作る必要性が理解された。参加型の学習方法の実習を通して「体験する・振り返る・解釈する・応用する」4段階と「個人・ペア・グループ・全体」の活動形態を組み合わせることで、一人一人の学びが活性化されることを参加者の側から理解することができた。研修の振り返りでは、参加者から年齢ではなく学び続ける姿勢が持続可能な社会を生み出すことにつながるという感想が出され、他の参加者にも共感された。職場で、すぐに実践できる手法も盛り込まれており、教員の参加者にも好評であった。新たなボランティア指導者として活動意欲を見せている参加者もあり、今研修会のねらいが十分に達成できた。</p>		
77	千歳市女性団体協議会	北海道 千歳市	①鈴木 聡士 ②村中 敬雄 ③山田 律子 ④北山 敬太 ⑤倉重 祐泰	生命工学科 教授 ②一般社団法人 ちとせタウンネット代表理事 ③RBC 本を読もう会 代表 ④末広町内会 会長 ⑤千歳市企画部地方創生・定住促進担当主査	豊かな地域コミュニティセンターを再生する～住み続けたい地域とひとづくりを目指して～	平成28年2月10日
	講演内容				研修成果	
<p>公共交通の存続が大切なことは自明だが、個人的には車を使うほうが便利であり、全員が同じことを考えて行動すれば公共交通は存続しない。町内活動が重要なことは自明だが、休日にはゆっくり休みたいと全員が考えて行動すれば地域活動は衰退する。このような社会的ジレンマ問題を解決する答えはまだない。日本人は人類が有史以来誰にも経験したことのない社会を初めて体験する。私たちは、一緒に考え行動していくかなくてはならない。そのためには、信頼、規範、絆という目には見えないが確かに存在している大切な資産を積極的に育成する地域づくりが必要である。地域に対する想いが強い人材を育成すること、スマートで新たな方策を模索していくことが必要である。</p>				<p>参加者数:223名 パネルディスカッションでは、facebookによる町内活動情報発信の取り組み、PTA総会の出席者を役員熱い想いで100人以上に増やした取り組み、読書会を市民活動センターの協力でつなげてきたことに対する信頼と、感謝を大切にする活動が発表され、千歳市には目には見えない大切な絆が確かに存在し、それを率いていく人材があることを市民にアピールする機会となった。また、地域活動が持続的なまちづくりに重要な要素ということがデータの示されたことで、前時代的で終わりが見えたと思われていた町内活動であるが、これからの時代を支える大切な役割があることを参加者に理解いただくことができた。 本フォーラムの開催がきっかけとなり、今後、新しい方策を柔軟に取り入れ、若い世代に確かに育っている人材を広げ、想いを伝播させて行動に移していくことが期待される。</p>		
78	〇〇魅力向上委員会	宮崎県 都城市	山田 崇	長野県塩尻市役所 職員	みんなで一緒に盛り上げようまちづくり	①平成28年2月28日 ②平成28年2月29日
	講演内容				研修成果	
<p>山田崇氏が市職員としてまちづくりに関わっていた時に気付いた事で、実際に空き店舗を借りてみようという行動を起こした経緯や実際に活動を始めて何が起きたのかを、スライドや動画も交えながら事例を紹介。また、対話はどういう事なのかを、参加者に体感してもらってワークを行い、行動に繋げていく事の大切さを伝える。</p>				<p>参加者数:111名 空き店舗からの活動事例を見て、次々に繋がり展開・発展していく事が面白かった。自分なりにやってみたくて勇気を貰った事や仲間を増やす為にも、対話が大事だという事を知った。自分から小さな事でも行動を起こしていく、ヒントを得た等、個人個人の意欲を高める事への成果となった。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	特定非営利活動法人GPネットワーク	富山県 富山市	①小川 悠 ②梶浦 秀樹 ③鈴木 輝隆	①一般社団法人 i.club 代表理事 ②株式会社 庵 代表取締役 ③江戸川大学社会学部現代社会学科 特任教授	まちづくりセミナー2015	①平成28年1月23日(土) ②平成28年2月13日(土) ③平成28年2月27日(土)
			講演内容		研修成果	
79			<p>【第一回】「街づくりは若者づくりから～地域でイノベーションを起こす教育の実践～」 イノベーションの定義を説明していただき、なぜ今、まちづくりに若者づくりが大事なのかということをお教えください。いま若者は地域離れというものが進んでいる。だけれども実は彼らの問題を解決することが大人が一步前へ踏み出すチャンスに繋がる、それが新しいイノベーションであったり、未来であったり、雇用を生み出していくんじゃないかというご紹介してください。そして、アイデア発想であったり、イノベーションを起こす上で、何が大事かということをお具体例を交えながら教えてください。</p> <p>【第二回】「古民家・町家を活用した滞在体験型の観光まちづくり」 新しい観光スタイルによるまちづくりとおもてなしということで、個人で好きなところに行って、好きなように楽しむという新しい滞在型の観光についての考え方、そしてそれがまちづくりと繋がっていく意味について教えてください。実際に取り組んでおられる事例について、写真を交えながら講演ください。</p> <p>【第三回】「地域に磨きをかける。ローカルデザインの取組」 ローカルデザインと人の繋がりというのは、どんどんいろいろなことをやってみれば可能性があるということ、全国の事例を踏まえながらお話ししてください。また、地域の中の面白い人や尊敬できる人と子供たちやいい人間と繋ぎ合わせていけば、いろんな変化があっても生き抜いていけるという考えなどを教えてください。</p>		<p>参加者数:113名 手法が違う様々な形のまちづくりを学ぶことができました。これらをすぐに実践に移すことは難しいが、本セミナーで学んだことを地域に持ち帰り、課題を解決するときの一つの打開策として取り入れていきたいという意見などが寄せられた。また、講師と参加者、参加者と参加者の繋がりが生まれるきっかけとなり、今後いろいろな地域同士が繋がることが期待される。</p>	